

THE MONTHLY REPORT

OF

SEITO JITSUGYO KIOKWAI.

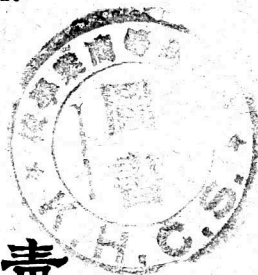
MARCH 1918 No. 3.

大 正 七 年 三 月

青 島 實 業 協 會

月 報

第 參 號



△本號記事▽

△內外經濟要報	△青島雜錄	△商況	△銀塊相場	△金融	△鐵道	△海運	△貿易	△協會錄事
△出入旅客	△出入船舶	△貿易品	△鐵道貨物	△青島物價	△屠獸場	△倫敦銀塊相場	△法規	△資料

青島實業協會月報 第參號目次

△協會錄事	一
△貿易	二
△青島貿易概況(一月)▽青島と香港	
△海運	五
▽船舶出入▽船貨狀況▽入船通知▽二月下旬出入船舶船名船貨	
△鐵道	七
▽山東鐵道概況	
△金融	八
▽二月中銀塊並ニ爲替相場	
△銀塊相場	八
▽一九一七年度の銀塊相場	
△商況	一一
▽牛骨▽牛皮▽落花生及同油▽燐寸▽石油▽砂糖▽米▽綿絲布▽鹽▽石炭▽牛肉▽麥稈黃田▽コークス▽紙類▽煙草▽清酒▽洋酒▽木炭	
▽木材▽石鹼▽玩具類▽三月人形	
△青島雜錄	一六
△內外經濟要報	一八
△資料	二〇
▽支那の綿絲紡績業▽芝罘地方落花生收穫狀況	
△法規	二九
▽青島不動産證明規則▽不動産證明の手數料に關する件▽官有土地貸下規則	
△倫敦銀塊相場	三二
△屠獸場屠殺數(一月中)	三三
△青島の物價(一月)	三四
△青島三驛發着貨物(月中)	三七
△青島輸出入貿易品	四〇
△出入船舶數	四二
△出入船旅客數	四三

青島實業協會月報 第參號

協會錄事

◎例會 二月十日月例會開催の筈なりしも當日は日曜日に翌十一日は紀元節に相當するを以て越えて十二日開會したき旨豫め幹事より回章を以て詢る所ありしに多數の同意あり即ち十二日午後六時開會、出席員左の如し（他は事情已むを得ざるものありて缺席）

伊藤忠合名會社青島支店

日本棉花株式會社青島出張所

東和 公司 青島 支店

東亞煙草株式會社青島販賣所

大阪商船株式會社青島出張員

大倉組營業部青島出張所

橫濱正金銀行青島出張所

大日本麥酒株式會社青島出張所

江商株式會社青島支店

商滿洲鐵道株式會社埠頭事務所青島出張所

南滿洲鐵道株式會社青島鑛業部販賣課出張所

幹事より（一）新年會當時十日會所用費額銀貳拾七圓也は御承知の通り當日は餘興費に投じたること（二）事務繁忙に付當分の内岩永徳市氏を臨時書記に採用したること（三）會員安部幸兵衛商店青島出張所代表者名井貞亮氏は今般同店を辭職したる旨通知ありたること（四）二月月番幹事は伊藤忠合名會社青島支店、大

阪商船株式會社青島出張員に付御披露し置く旨述ぶる所あり、次で書記長より本期間に於ける會計、庶務其他一般會務に關する報告をなし猶ほ希望として印刷費増加、調査事項擴張、職員一名増備等に因る財源三案を提出し協議に供する所ありたり右終て軍司令部に於て時々開催さるゝ當地海關に關する研究會に就き石橋藤次郎、永井熙八兩氏より詳細なる顛末報告あり猶ほ本件は青島貿易の發展に關し頗る重大なるものあるに付き協會代表員として三四名を選出するを可とするの説あり、本席上に於ては月番幹事之に當ることに決定、夫れより雜談に移り親睦を重ね午後九時半散會せり

因に當日參考として配附せし書類は（一）青島貿易三箇年比較表（二）書籍購入通知（三）支那關稅改正委員會各國委員名（四）今期帝國議會に於ける山東及青島に關する議員の質問及當局の答辨（新聞拔萃）なり

◎海關問題研究會出席員増置ノ件 先般來軍司令部に於て開會中の當地海關に係る研究協議會に協會よりは月番幹事之に出席の儀は十二日例會に於て決定せし通りなるが猶ほ更に一二名の増員を必要とするものあり取敢わす三井物產株式會社青島出張所を煩はすことに幹事より二月廿日回章を以て同意を求めたるに全員賛同ありたり

◎月報配附 協會月報第貳號は二月二十日青島民政所に納本濟の上夫々各方面に配附せり

◎旬報配附 海關旬報（一月上旬第一號）は一月三十日、同中旬（第二號）は二月十二日、同下旬（第三號）は三月四日何れも配附せり

◎官廳訪問 濟南にベスト發生に就き傳染病豫防委員會の施設

方針を聴取すると同時に豫防方法其他打合せの爲二月二十七日吉見書記長は民政部に花井警官を、香港禁輸事情照會のため幹事大阪商船會社出張員(代表者森山龍起氏)は三月二日青島民政部に中野署長を訪問、吉見書記長は香港禁輸事情に付き三月六日夏秋總務部長、中野民政署長を訪問せり

○協會代表者の動靜 川畑竹馬氏(原田汽船會社支店)は十四日内地へ△三宅駿二氏(東和公司支店)は神戸滞在中△淺見豐吉氏(東亞煙草會社青島販賣所)は三月上旬沂水方面へ出發旅行の豫定△片桐篤太郎氏(朝鮮銀行支店)は三月三日濟南へ出張同月五日歸青△永井熙八氏(大日本麥酒會社青島出張所)は南清地方旅行中二月七日上海より歸着△山田三平氏(山田出張所)は大連へ出張中二月二十四日歸着△河南薰氏(神戸棧橋會社派出所)は二月二十四日内地へ△松原秀三氏(江商株式會社支店)は二月四日上海へ出張十一日歸青△名井貞亮氏(安部幸兵衛商店出張所)は今回同店を辭職△伊東經眞氏(南滿洲鐵道株式會社青島鑛業部販賣課出張所)は今回本社詰に轉任後任として關川平三氏著任、伊東氏は目下病氣療養中全快次第赴任の筈、關川氏は目下内地へ歸省中△金子慶治氏(鈴木商店出張所)は目下内地滯留中なり

貿易

○青島貿易概况 (二月)

本年一月中の青島貿易は奥地農產物出廻期の遅れたると内地化學工業界の氣勢を昂めたる等の爲青島鹽の輸出激增を呈したる

ありて船積五萬四千〇八十七噸九(昨年一月二萬七千七百六十二噸九)を算せり而して輸入に在りては昨年同月と大差なく陸揚三萬七千五百七十一噸七(昨年三萬二千九百九十三噸七)なり左に千噸以上の船積陸揚貨物を列舉せんに

△陸揚貨物

白米	一、七三九、九	高粱	四、七四五、〇
麥粉	四、二一七、一	白砂糖	一、二八一、四
赤砂糖	一、一六七、一	煙草	一、三四四、八
石油	二、八四八、九	燐寸	一、五六五、一
綿絲	三、〇五六、七	綿布	一、〇六三、三
支那紙	一、八七三、六	石炭	一、五五七、〇
竹材	一、七〇五、六	木材	一、七三九、二

△船積貨物

落花生	八、八二三、七	牛肉	二、二二〇、四
鹽	一一、五九八、〇	葉煙草	三、四八六、五
落花生油	八、五四七、四	豆油	一、一〇八、八
牛油	一、〇七一、〇	博山炭	三、一五一、一
淄川炭	二、五二八、〇	コークス	五、五五二、九

而して以上の貨物中昨年同月と比較するときは白米は四百七十七噸三なれば千二百六十二噸六の増加を示し白砂糖は八百十四噸九にして四百〇六噸五の増加、赤砂糖は八百五十四噸四の三百十二噸七の増加、石油は一萬〇八百九十九噸の八千〇五十噸一の減少、燐寸は九百八十七噸五の五百七十七噸六の増加、綿絲は二千六百三十二噸九にして四百二十三噸八の増加、綿布は七百七十一噸三にして二百九十二噸の増加等其他一體に前年同月に比し増加の方なり、亦船積貨物としては落花生一千六百十二

噸四の七千二百十一噸三の増加、鹽は一千六百四十噸の九千九百五十八噸の増加、コークスは百〇五噸四にして五千四百四十七噸五の増加、牛肉は七百九噸八にして一千五百十噸六の増加落花生油は三千二百八十二噸四にして五千二百六十五噸の増加を示し其他を通して是亦一體に増加せり但し之れ前年一月と今年一月との比較にして未だ以て如上貨物が各月此の如き増加割合を有するものとは無論即斷するを許さず而して試に大正四年以後本年に至る四ヶ年の各年一月中陸揚船積貨物の數量を對比せば左の如し

	陸揚貨物	船積貨物
大正四年一月	一〇、五七三、〇	二、二九二、〇
大正五年一月	一五、九三九、〇	二七、六〇五、〇
大正六年一月	三二、一九三、七	二七、七六二、九
大正七年一月	三七、五七一、七	五四、〇八七、九

◎青島と香港

貿易上より見たる

傳ふる所に據れば曩に香港英國政廳は同地より本邦及大連其他への輸出は一時絶對的に禁止する所ありしが二月初に至り輸入商が其他管轄英國官憲に新保證書を差入れ其の輸入證明が同官憲より香港官憲に通知せられたる時同輸入商に對し特別許可を與へ以て輸出を行ふを得ることに多少解禁の意を示すに至りたるも元來斯かる手數を経ることは敏活を尊ぶ商取引上不便鮮からず從て關係商人の打撃も決して鮮少なからずとし大連等に在ては夫々研究調査中の由なり而して其の禁止區域として報せらる

、所は日本、朝鮮、臺灣、大連及青島にして禁輸主要品としては綱、鐵、黃麻袋其他なりと云ふ、之に對して當地に在りても民政當局及民間に於ても夫々調査研究されつゝあり而して青島と香港との貿易關係は大連同様餘り密接の方にあらず以下大略を記さんに

●●●●●●●●●● ▲獨逸時代の貿易額

	輸 入	輸 出
一九一一年	一、二一四、〇〇〇	一、三九、〇〇〇
一九一二年	一、九九五、〇〇〇	一、二二、〇〇〇

▲占領後の貿易情勢

	大正四年	大正五年	大正六年
輸 入	七、〇八一、四	一四、〇九七、一	二三、七七〇、四
輸 出	一五、九五二、三	四四、五三九、八	二五、〇九七、九

▲香港よりの輸入品 (單位噸以下一位)

品 目	大正四年	大正五年
白 米	一一八、九	二七三、七
海 產	四三、一	八三、五
綿 絲	六三、九	三五三、九
綿 布	三、六	一一、三
煙 草	四、四	八七、二
鐵(古鐵ヲ含ム)	一、九二三、〇	二、四二二、五
其他ノ金屬	六一、六	二三、八
金 屬 製 品	二四、一	一一九、九
染 料 塗 料	六二、五	二三九、四
藥品及藥材	一〇九、二	一一三、二
蔬 菜 果 實	七、二	五二、四

砂	三、六七六、五	七、三三三、三
食料品雜貨	一〇〇、四	八六、三
紙類	五一、五	五九、四
洋物雜貨	六九、二	六二二、五
石油	一五、二六一、九	〇、七
穀類	〇、七	一、一二九、七
麻袋類	一、一二九、七	四一八、五
洋酒	〇、六	一、一
洗濯石	一、一	二二、五
牛皮	四七二、九	三七八、一
其他	一二、五	一

▲香港への輸出品 (單位噸以下一位)

鐵(古鐵ヲ含ム)	四、〇	一〇、三
海產物	二九、二	二二、二
蔬菜果實	四〇、一	二二、五
絹布	二六、四	九〇、三
藥品藥材	一、〇	二六、二
落花生	七四、一	三六、八
落花生油	二八、〇	一一、五三〇、四
鹽	一五、六九〇、〇	三三、七二二、五
石炭	四五、〇	〇、四
玻璃製品	〇、四	〇、四
鮮魚	六九、五	六、三
洋物雜貨	一二、二	〇、四
其他	一、二	六、三

△大正六年中香港よりの輸入品

品名	單位	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	單位	八月	九月	十月	十一月	十二月	自一月計至七月計	自八月計至三月計
白米	噸	一五五	一、三二	一、三三	一〇〇	八九六	三、八六〇	五三	二二〇	一、四三〇	一、四四	一、四四	一、五五	一、八四	一八四四	五七、三
麻袋	噸	八三	五〇	一〇〇	一五七	一五八	二〇三	二二	三九	一六五	二八	二六	二六	二六	二〇八	三〇八
海產	噸	二七	五四	七五	一五七	一五〇	二〇三	二二	七五	四三三	二六	〇七	一〇七	二七	二〇七	二二、二
綿絲	噸	八六五	七五	三〇	一三	二〇	六〇	一〇	七五	一九六	六〇	七〇	七〇	二七	二七	八九、二
卷蓆	噸	二七九	二〇	三〇	一三	二〇	六〇	一〇	三三	三三	八二	三〇	三〇	九八	四、一〇	四九、二
染料及塗料	噸	二五〇	二〇	三〇	六五	一〇七	四〇	一〇	三五	九五八	五五	五五	五五	三六	四、一〇	五七、七
鐵類	噸	一〇三三	三九五	二七〇	一〇三二	四〇九七	一、五七	一〇六	一五三	三六五	二八四	二〇四	二八二	七六	三、七六	一〇、四七
其他金屬	噸	四〇	四〇五	一〇四六	六、九四	四〇九七	一、五七	一〇六	三五七	二八四	二〇四	二八二	二八二	七六	三、七六	一〇、四七
金製	噸	九五	三八二	一四二	二	一四二	六七	一七	二六六	六二七	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
藥品	噸	六四二	一四八	一九四	五三三	二九三	六七	一七	二六六	六二七	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
赤砂	噸	二、三三五	一、三五〇	六、五七	一七、四七	七、四〇	四、九三	四、六〇	九、六〇	三、三六七	一、五五	一、五五	一、五五	一、五五	一、五五	一、五五

出廻期の幾分遅延のため一月に入りて初めて盛況を呈し本月上旬猶ほ持續したるも中旬は舊正月のため支那商一體に取引を休止し從て貨物の搬出方も一時影を潜めたる觀あり、船貨も亦不十分の方なりしが下旬に至り再び輸出貨の搬出盛況に進み各船腹其滿載を見るに至れり即ち輸出の月上旬に在ては落花生、鹽、コークス、牛皮、桐材を中旬には略は前旬同様の景況を繼續し下旬に在ては鹽及落花生油最も旺盛を呈し輸入貨に在ては上旬白米、砂糖を、中旬燐寸、セメント、木材、竹材を増加し下旬に在ては各貨共多少の減少を示せり

△入船通知 二月一日より青島入港船舶の港外塔運島燈臺通過に際し港内入港時及船名通知の件愈々實施さるゝことゝなれり本件は青島郵便局と該燈臺との連絡に基き通過の時刻及船名を特約者に電報にて通知する手筈にて一般船舶業運送業者及出人旅館業者に取り頗る利便なるものあり通知電報料は毎合計年度に於て金一圓の登記料を納付したる者は電報一通毎に金十錢臨時請求者に對しては一通知電報に付き金二十錢を要し申込用紙は青島郵便局に備へある由なり、尤も取扱時間は日出より日没に至る間に於て且つ濃霧等のため該燈臺より航行船を發見する能はざるもの又は船體を發見するも船名を知る能はざるもの其他外國船にして船名を問へるも之に答へざるもの等の場合は之が通知をなし能はざるも定期船等に對しては最も完全に告知するを得べしとのことなり

△下旬船舶 二月下旬出入汽船名及船貨左の如し

▲入港日	船名	船籍	噸數	仕出地	船貨
廿一日	龍平丸	日本	四二七	大連	雜貨
同	長良川丸	同	五八七	大阪	同
同	大典丸	同	三七七	同	同

出港日	船名	船籍	噸數	仕出地	船貨
廿二日	雲南丸	同	一、三四〇	門司	ナシ
同	天潮丸	同	七五一	上海	雜貨
同	臺北丸	同	一、五二二	大阪	同
同	メーリット號	米國	一、四一〇	秦皇島	ナシ
廿三日	神戶丸	同	一、三四六	大連	雜貨
同	共同丸	同	一、五三六	上海	同
廿四日	共同丸	同	九一七	大連	同
廿五日	チンダレン號	英國	七、一七一	香港	ナシ
同	薩摩丸	日本	一、一二二	大阪	雜貨
廿六日	龍平丸	同	四二七	大連	同
同	有田丸	同	三〇七	大阪	同
廿七日	コ、ナダ號	英國	二、一六二	香港	ナシ
同	江原丸	日本	四二六	鎮南浦	雜貨
同	伊奈波山丸	同	六九三	大連	同
▲出港日	樺太丸	日本	一、七八四	門司	鹽
廿一日	大保丸	同	四五四	釜山	同
同	龍平丸	同	四二七	大連	雜貨
廿二日	色丹丸	同	一、七一〇	橫濱	同
同	長良川丸	同	五八七	神戶	鹽
廿三日	大典丸	同	三七七	大阪	雜貨
同	雲南丸	同	一、三四〇	徳山	石炭
同	メーリット號	米國	一、四一〇	マニア	牛肉
同	神戶丸	日本	一、三四六	上海	雜貨
廿四日	天潮丸	同	七五一	同	同
同	臺北丸	同	一、五二二	大阪	同
同	神戶丸	同	一、五三六	大連	同
廿五日	共同丸	同	九一七	同	同
同	チンダレン號	同	四二七	同	同
廿八日	有田丸	同	三〇七	門司	鹽

鐵道

○山東鐵道概況（一月中）

●●●●●
△輸送貨物 本年一月中山東鐵道の輸送貨物は八萬〇〇三十噸二にして昨年同月の三萬七千〇〇噸一に比するときは實に四萬三千噸餘の増加にして青島驛の如きは昨年二千七百〇八噸六より六千三百三十四噸七に、大港驛は九百六十四噸二より二千二百三十五噸五に、埠頭荷扱所は一千九百四十四噸八より六千五百七十噸八に増加せり蓋し昨年は一月中に舊正月ありたるも本年は二月中旬に當りたれば貨物搬出上及取引關係に原因するもの多しとせらる左に主要貨物の昨年一月と本年一月との比較を示さんに

	昨年 一月	本年 一月	増○減△
石炭	九、三二〇、六	二七、八八一、〇	〇 一八、五六〇、四
コークス	四、二二二、六	一〇、九五二、八	〇 六、七三〇、二
高粱	三、四七七、八	二、六五九、二	△ 八一八、六
落花生	八三九、二	四、五一八、一	〇 三、六七八、九
落花生油	一、八一三、二	五、四八四、一	〇 三、六七〇、九
石油	二、二八三、九	二、三二七、七	〇 三三、八
小麦	一、一六五、一	一、三六七、一	〇 一、二〇二、〇
砂糖	一、一〇三、二	一、七七七、五	〇 一、六七一、四
野菜	九、九〇、五	一、八〇六、〇	〇 七〇二、八
葉煙草	九、九〇、五	一、九三〇、六	〇 九四〇、一
綿糸	五、一〇、七	一、〇八二、三	〇 九八二、八
綿布	三、九六、三	六、六二、〇	〇 一五一、三
雜貨	六、八八、六	五、三一、一	〇 一三四、八
		二、六五九、四	〇 九七〇、八

即ち著しく増加したるは石炭、コークス、落花生、落花生油、小麦、麥粉等にして減少したる分は高粱外數品に過ぎず而して近時山東牛肉の需要各方面に盛んとなり青島驛著本年一月分の生牛頭數は五千七百四十頭にして昨年の同月の三千五百六十三頭に比するときは二千百頭餘を増加せり

●●●●●
△乗降客數 本年一月中全線の乗客は一等四百五十四人、二等四千八百八十四人、三等十九萬九千三百三十三人計二十萬三千九百七十一人にして内青島驛に屬するもの一等乗客百四十八人、降車客百六十一人、二等乗車六百五十六人、降車七百十八人、三等乗車一萬八千五百九十八人、降車二萬九千八百五十三人計乗車一萬九千四百〇二人、降車三萬〇七百三十二人、大港驛に屬するもの一等乗車二十五人、降車五人、二等乗車二百人、降車十七人、三等乗車七千八百八十一人、降車二千〇三十人計乗車七千四百〇六人、降車二千〇五十二人なり

△營業成績 本年一月と昨年同月との比較左の如し

	昨年 一月	本年 一月	増○減△
乗車人員	一五七、二四六	二〇〇、四七〇	増 四三、二二四
乗客 貨	一四〇、六八一	一四一、二八四	同 二七、一一六、二九
手荷物 貨	一、七五四、六五	六四八、七〇	減 一、一〇五、九五
小荷物 貨	二、一九三、九四	二、八六七、五五	増 六七三、六一
小口扱噸數	六六二、二	七二二、〇	同 五九、八
小口扱運賃	七、四〇六、四〇	八、三〇二、〇〇	同 八九五、六〇
一車扱噸數	三五、六四〇噸	七九、五八〇、〇	同
一車扱運賃	（獸類三、一六二頭） 一六二、〇八五、〇五	三二三、八三一、五〇	同 一五一、七四六、四五
雜收 入	九九五、〇〇	一、五八五、五六	同 五九〇、五六

金 融

◎二月中銀塊並に爲替相場

▲銀塊相場 本月は四十三片四分ノ一に始りたる相場を最高とし以後低落の一方に傾きたるも其變動甚だ少く月末四十二片半を最低として本月を終りたり、本月は龍動市場の相場銀塊の供給割合に多かりしも需要又之れに伴ひたれば多少弱氣の市場なりしも其の變動甚だ少かりし

▲爲替相場 本月日本向電信局爲替は百三十九圓五十錢を以て始り百四十一圓五十錢に最高百三十八圓二十五錢を最低とし百三十八圓七十五錢を以て終りたり蓋し本月中旬は支那正月に當りたるを以て取引至て少く又銀塊市場も平穩なりしを以て爲替相場も又少かりしが上海市場は依然として金融逼迫し正月前殊に甚しかりしかば正月後と雖も其餘勢にて世人の期待せし如く相場下落するに至らず反て強氣の情態を呈したり殊に支那内地は南北の紛擾何時終局するや豫測し難きを以て輸入品の賣行少く從て爲替銀行をして輸出爲替の多きに苦しむの傾あり

▲金融 上海市場は正月前金融逼迫せるを以て各地よりの送金多額に上り當地濟燕公所五日目拂上海手形は九百四十七兩なりしが正月後は俄然下落し九百三十二兩を唱ふるに至りたり以て正月前後上海に對する金融の如何に變動するやを測知するに足る而して當地は輸出季節なりと雖金融緩慢ならず又米國輸入品制限令の爲め正月後輸出思はしからず爲めに綿糸の如き期待せるが如き賣行なきに加へ月末濟南黑死病來襲の報あり世人をして前途を豫測し難からしめたり

銀 塊 相 場

◎千九百十七年度ノ銀塊市場

△稀有の變動 千九百十六年度に於ける銀價高低の激甚なりしは千八百九十年以降嘗て見ざる所なりしが本年度（一九一七年）の銀塊市場の變動は更に著しく實に一年の間は如斯急激且多大なる高低ありしは嘗て無かりし現象ならん。左表に示すが如く本年度の最高は五十五片最低三十五片十六分の十一にして其差十九片十六分の五に上り一箇年の平均四十八分の七に達せり

	1917	1916	1915	1914	1913
最 高	55 d	37 $\frac{3}{8}$ d	27 $\frac{1}{4}$ d	27 $\frac{3}{8}$ d	29 $\frac{3}{8}$ d
最 低	35 $\frac{11}{16}$	26 $\frac{11}{16}$	22 $\frac{5}{16}$	22 $\frac{1}{8}$	25 $\frac{11}{16}$
高低ノ差	19 $\frac{5}{16}$	10 $\frac{7}{16}$	4 $\frac{11}{16}$	5 $\frac{5}{8}$	3 $\frac{7}{16}$
平均相場	40 $\frac{3}{8}$	31 $\frac{1}{16}$	23 $\frac{11}{16}$	52 $\frac{1}{16}$	27 $\frac{9}{16}$

年頭三十六片半に始まり一月中左したる變化なかりしも米國に於ける支那買進の爲め二月中旬に於て三十八片十六分の七に昇り後數週間漸次下降して三月二十七日三十五片十六分の十一に低落せり之前年十一月以來の安値にして又本年度の最低相場なり而して四月六日米國が對獨宣戰を布告するや米國の補助貨鑄造用銀購入の噂喧傳せられ茲に銀塊市況は方向を一轉し爾後九月に至るの長き期間毎月の最高低は常に其前月のものより高きを見たり

△支那側買入、四月英國の戰時保險料率は五ギニアに引上られたるにより銀塊の紐育相場と倫敦相場との開き増大せられ

たるも當時支那は寧ろ銀の賣手たりしを以て五月末頃までは銀市場に於ける其影響甚しからざりき乍併其後支那が買側に立つに及び銀價昂騰を誘發するの原因となれり、由來紐育相場は倫敦相場を基準とし之に紐育倫敦間の運賃保険料等を參酌して建てらるゝを以て支那が紐育相場―桑港渡し―に對して著しき打歩を拂ひ得たるや明なり如何となれば桑港東洋間保険料は紐育倫敦間保険料より遙かに低率なればなり、此理由により六月に入りては支那側買入の爲め銀塊の倫敦市場に出廻るもの少なく相場は五月の最高三十八片八分の一に對し六月下旬已に三十九片八分の七に至れり、支那側買入は七月上旬中繼續し伊太利造幣用需要により一層強氣となり七月十三日四十一片に至りしも翌日印度政府が印度國內に銀の個人的輸入を禁止したるの報ありしにより直に四十片四分の一に下落せり乍併其翌日に於ては不思議にも一片を跳ね返したり是れ過去數箇月間印度の地方市場に於ける買持に對し倫敦市場に於て銀を賣越したりしバザ―(Bazaar)が急ぎ買埋を爲したるによれり以後需要減退と米國に於ける支那買入の一時的中止とにより相場は低落して七月末三十九片八分の五に至れり八月上旬再び支那の買入を開始するや米國買入れ見合にも係らず相場奔騰して四十六片に至れり是千八百九十一年以來の高値なり

△騰貴の特徴 留比の實價騰貴に備へ且其鑄潰しを防がん爲め印度政府は倫敦向電信送金相場を一留比に付一志四片より一志五片に引上げ更に銀の對外輸出を禁止せり幾何もなく米國も亦同様特許を得るに非ざれば銀の輸出を禁止する旨の禁止令を發布せり乍併特許を得るの不可能に非ざるを信せる在支那外國銀行は依然銀購入を繼續したるを以て相場躍進して九月二十

一日五十五片に至り以後四日間之を繼續せり之れ當に本年度の最高相場たるのみならず實に千八百七十八年以降の高値なり而して今回の騰貴に關し最著しき特徴は最昂騰が連續的にして些の反動を示さざりし點にあり即二月二十七日(三十九片八分の五)より九月二十一日(五十五片)に至る二箇月間二十五片八分の三を上昂せり全一年の高低十九片十六分の五なるを思へば此二箇月間の急激なる變化が如何に興趣に富めるかを知らむ。

△變動の基因 九月二十五日以後市況一轉し下旬已に四十片に下り尙前途不安を氣構へり此低落はスカンデナビヤ及和蘭に銀の輸出を禁止すべき旨の英政府布告に一部原因せるものなるべし、十月は低落の月なりき支那賣出により逐日降下し十月一日四十八片四分の一より一直線に二十四日四十一片八分の七に下落せり、茲に市場は再び引緊り三十日突然一日三片を跳て四十六片に恢復せり之れ供給缺乏の爲なりしも暫時にして四十四片に逆戻りせり而して比較的安値なる此四十四片さへも十一月七日以後は再び之を見る能はず市場沈滞して十一月後半四十二片四分の三を彷徨せり、歲末稍手堅く支那正月(次年二月十一日)を氣構へ支那側例に依て買進み十二月最高四十三片を唱へ市況稍恢復せり、斯く各月の變動を觀來れば本年度變動が印度政府の堅實なる買入よりも寧ろ支那側に於ける賣出又は買入に起因することの多かりしは明にして英國造幣用竝に聯合諸國用需要も亦巨額にして本年中間斷なく行はれたり、支那の巨額なる賣出又は買進が相場の變動を速に且著しからしめたるは蓋し止を得ざる所にして若し印度に於ける不斷の需要なかりせば支那の賣出は更により多くの崩落と反動とを齎らしたるべし。

△印度の銀需 英國の造幣用需要は戰前に比して著しく多

額なるも其額二百五十萬磅を越えず併も高値の折柄なるを以て銀の分量に於ては遙に昨年度より少し佛國は昨年度と略ぼ同額を又露國は初夏の候米國より多額の現送を受けたるも而も最多きは印度政府なりき印度通貨報告によれば留比銀貨は年頭十四クロア（一クロアは一千萬留比）を以て初まり三月には十六クロアに増加し五月十三クロアに減少し以後毎週増加し十月十六日遂に二十九半に達せり是れ千九百十五年以來の多額なり十月以後例年の如く多少の減退を來したるも尙昨年度に比して堅實なりき、モンズーン良好の爲め農作充分にして船腹缺乏の爲め輸出著しく阻害せられたるも然も農產品買付に要する留比の流通は尙平年より遙に多くを要したるのみならずメソポタミアエジプトアフリカに於ける軍隊用としても多額の留比を要したりしや疑なくカルカッタ孟買兩造幣局の報告によるに去三月三十一日に至る過去一箇年間の一留比八アンナ四アンナ銀貨の鑄造高三億〇七百萬留比以上に上れるは最注意すべき所にして而して如斯鑄造の多きにも拘らず尙且印度政府が最近一留比紙幣の發行を決せる等は以て印度の著しき繁盛を示すものなり

△米國の銀需 米國政府の銀購入に關しては屢風聞あり參戰後二三箇月にして米政府は買入に關する報告發表を停止せるも其の需要の多額なりしは疑なき所にして十月以降其三造幣局は二十四時間作業にて間斷なく鑄造に従事したりといふに見るも明なり而して之に要する銀の買入は五月より九月に至る相場昂騰の際著しく困難なりき九月以後メキシコ政府が銀高値に乗じて所有銀喰を爲すに至り稍困難の度を減せり、米國の補助貨鑄造用需要大なるの折柄同國大藏省が四億萬弗（八十萬磅）なる巨額の發行準備を保有し之を實用に供せずして金庫に收藏する

は無益なるの感を引き起さしめたるも同國政府に於ては恐らくは之を弗銀の實價にて賣却するの犠牲を敢てするを欲せざるなるべし、十一月十四日米國政府は自國並に英國政府用として銀一億オンス購入を鑛山業者と協約し内六千萬は印度に殘餘は佛國出征の米國軍隊用に充つべしとの報あり後米國大藏省は國內產銀全部買占を行ひ其値段を一定すべきを宣言せるやの報傳はれり此種突飛なる計畫の喧傳せらるゝ結果市場を不安に導くは蓋し自然の勢にして買入額相場其他詳細なる報道に接せざる今日に於て其影響を考察するは未だ其時機に非ざるべし

△伊國と佛國 如此にして銀相場の前途を豫想することは平年よりも更に一層困難なるを覺ゆ印度並に歐洲各國造幣用需要が世界の銀產額に超過すべきこと亦豫想し得べけんも一方聯合各國政府が戰時中可及的銀購入を避けんとする傾向ある時に當り十月初伊太利政府が一リラ並に二リラ銀貨の回收を布告せるは注目し價すべく佛國も亦最近千八百七十年以後鑄造の五法銀貨を回收し之を補助貨に改鑄するに決定せり

△銀輸送徑路 久しく銀の投機的賣買皆無なりし爲め買占豫防の目的を以て倫敦に多額の銀在荷を有するの必要なく年初六百八十萬オンスの在荷は昨今殆んど僅少なり紐育カナダよりの着荷は不思議にも確實にして年初の「ラコニヤ」及九月の「ミチオタ」二隻の外銀輸送船の災厄を被りたるもの無かしは一に帝國並に與國海軍の警戒の嚴なるに感謝せざる能はず、乍併本年の特徵として對支那取引著しかりし爲め銀輸送の徑路は太西洋よりも寧ろ太平洋側に多かりき、支那は本年度に於て差引銀の賣手にして印度向三千九百萬オンスの外尙他地方向多少の輸出を爲せり之に對し桑港より約二千五百オンスを輸入し支那内

於ける本品の情況は落花生及同油共昨年に比し著しく昂騰せり即ち生實に在ては昨年當時六圓二十錢なりしが今年は時價九圓五十錢見當にて實に三圓方の騰貴なり、又同油に在ては十三圓六十錢のもの今年十八圓五十錢見當にて之亦五圓方の騰貴とす之が原因は米國向需要の増大に基くこと其一因なるも他に種々なる因由の存することは勿論なり、而して當市場よりの搬出は生實よりも漸次同油の輸出熾んとなり其の一月中輸出高八千五百四十七噸を算し昨年當月の三千二百八十二噸に比するときは實に五千噸以上の増加なり、生實も亦八千八百二十三噸にして昨年當月の一千六百十二噸に比せば七千噸以上の増加とす、生實輸出が同油に形を變へたるの一事は全く油の需要關係及運賃上の打算に據る當然の現象となすべく而かも前述の如く米國に於ける燃料の缺乏は勢ひ工作上の節減並に運輸力に多大の影響を來たし滯貨相次ぎ一般油類の相場下落を餘儀なくせしめ今後當分持直しの見込みなく當市場も亦之に連れて下押の觀あり只提灯屋筋の買進みにて手堅き様なるも之も一時的細工に過ぎざるべし

◎燐 寸

產地黃燐マツチの安全燐寸製造に轉せると製出高の減少原料鹽酸加里の暴騰製品薄きと需要高増大とに因り益々買氣煽り相場上進の一方なり當市場に在ても沿線奥地共買氣少き割合に相場硬き所以は一に内地製產關係に連繫せること蔽ふへからず、市價保牌倉渡二十五兩五匁、雜牌二十四兩五匁の見當なり

◎石 油

日本石油に在りては前月來一時に暴騰を呈したるも本月に入り箱五十錢方の下値となりたるも在荷稀薄のため需要に添はず殊に漁業期に入らんとする際なれば益々供給難の一方にして宜しく外油に擅斷さるゝ有様なり相場は前月と大差なく青全勝四圓八十五錢、赤四圓六十五錢見當とす外國油に在りてはさなきだに供給上秩序と整調とを以て地盤の擁護に依然たる折柄日本油の搬入思はしからず今や市場は殆んど超然獨占の狀態に在り然かし其の二月中旬は恰かも舊正月に際し支那商の取引休止のため聊か荷動き難き方なりしも下旬に至り再び需要旺盛活氣を帶ふるに際せり市價前月同様美孚虎印一國五圓三十七錢、亞細亞僧帽四圓九十七錢乃至五圓見當なり

◎砂 糖

瓜哇糖の市況は依然保合の商狀なるが日本内地は分密糖兎角品薄にて強氣の買進み相場上押七八月渡し金十九圓七十錢の成約を告げ精糖は原料高にて市況強硬中旬各社共益々強腰にて更に加ふるに最近臺灣原料糖作柄半減の發表を以てし相場此の上昂進の方なり、當市場は舊正月明け奥地買付客の出青例年に後れ舊正月引當支那手持品の荷捌け捗々しからず海外高に係はらず相場動もすれば下押氣配あり殊に濟南ベスト發生、鐵道乘客の自由來往不能となり市況益々不味に陥り目先小口取引の外纏りたる商談成立たず一般不振の態なり

◎米

初旬は一體に弱氣の方なりしが中旬に至り俄に動搖、相場昂進し内地の如き玄米石二十五圓臺のもの二十八圓臺に上向き朝鮮

方面に在ても本品の價格著しく上調子を呈し仁川精米は當地著の分二十六圓八十錢より二十八圓以上を呼ぶの有様となり卸値の如きも一俵五十錢方の値上げを見るに至りしも市場投げ賣の現はるゝなどにて幾分調節の傾きあり然れども内地米穀類輸出制限等の聲ある以上一般本品の當市場に於ける實情は強氣の方なり

◎綿糸布

△概況 本月は舊正月の大半に跨りしを以て大體を通じて閑散を極めたり月始めは舊年末にて手合せ寥々見るべきものなく舊正明好需を期待されしも大阪市場不振未曾有の多數停滯荷存せるを傳へられ兎角頭重の感あり、奥地買氣も一向捗々しからず一般期待外れを來し好需見越の洋行筋買持品は金融關係にて兎もすれば投げ出されんとせるを以て買手は悠々迫らず相場伸悩み依然として本國とは出合難く非常なる値開きを有せり、而して月末濟南に黒死病發生するに至りて愈々其勢を助長せり
△綿糸 は日本との値開き甚しきを以て漸次支那系に傾かんとする傾向あり上海系の輸入多きを加へつゝあるも之れとても上海市場とは其相場全く出合はず三四兩は常に安値にあるの狀態にて思惑買付は全然失敗に終らんとし成行投出すの止を得ざるに見受けらる勿論直に需要季節に向ふ事なれど此上市況惡化を來たさん様もなければ内外目下の事情にては當方面の需要は到底當市況を全然硬化せしむるの力なく各地の停滯品を消化し需給の均衡を保ち本直に立直るは未だ前途遼遠の事ならん然れども若し近き將來停滯品の壓迫にて大阪上海等の相場瓦落するに至らば茲に始めて支那と出合ふべく要するに各地の灰汁拔せ

ざる限り當方面の好況は望まし難し
本月中綿糸成行を示せん

大阪三品相場

	二月一日	二月十二日	二月二十一日	二月二十七日
當月限	三二六圓〇〇	三二七圓七〇	三二五圓六五	
三月限	三三一圓四〇	三三〇圓七〇	三二九圓七五	三三三圓七五
四月限	三三二圓四五	三三三圓九五	三三二圓四五	三三七圓九五
五月限	三三五圓〇〇	三三五圓一〇	三三四圓〇〇	三三九圓四五
六月限	三三五圓九〇	三三六圓〇〇	三三五圓一〇	三三九圓四〇
七月限	三三五圓七五	三三七圓〇〇	三三五圓三五	三三九圓六五

當地現物相場

	二月一日	二月十五日	二月二十八日
16 扇面	一四一兩	一四四兩	一四六兩五〇
16 紅月	一三九兩	一四二兩	一四四兩五〇
20 日烏	一五〇兩	一五三兩	一五六兩〇〇

△綿布 は粗布及斜紋には軍需向買物あり割合に好値賣行きありたれども其他は綿糸同様買持洋行筋の投物以外望手なくそれも天竺の割安品を小口宛望取りたるのみ紬布紬綾等の上物は未だ需要喚起せず時期尙早の觀あり本月中大阪及び當地成行を示さんに

大阪三銘相場(四、五、六月物)

二月一日 十圓五〇	二月十二日 十圓五五	二月二十一日 十圓五八
二月二十七日 十圓六〇		
當地現物相場 九龍粗布		
二月一日 四兩九〇	二月十五日 四兩九五	二月二十八日 五兩〇五

◎鹽

青島鹽の輸出は需要増大に連れ益々發展しつつあり去一月中日

本内地に向け輸出されたるもの八千九百七十八噸、朝鮮に二千六百二十噸にして昨年一月の總計一千六百四十噸に比するときは實に一萬噸の増加なり、蓋し内地鹽の窮乏鹽價の上騰加ふるに化學工業界の振興等に因ること勿論にして今後共青島鹽の輸出は盛況の一方と觀測さる市價四圓五十錢見當なり

◎石 炭

本品の需要期は大體より云へば經過の方なるも一方企業界の旺盛と鐵道其他軍用炭需要高のため地賣炭引當としての淄川炭は出廻り少く且つ輸入炭は地元炭價及運賃船腹の關係上頗る高値なれば當市内石炭欠乏の聲は依然として絶わざるの傾あり故に淄川炭の輸出も制限され又之に代ふるべき博山炭も出炭及輸送上の都合充分ならず一般石炭難に苦める方なり市價淄川塊炭九圓、撫順塊炭十六圓、日本炭十六圓見當にして今年當月の輸出高一萬一千噸、輸入三千噸、昨年當月輸出一萬三千八百噸、輸入六百噸と觀測さる

◎牛 肉

山東牛肉の輸出は愈よ旺盛となり聲價亦高まるの傾きあり當方面に於ける屠殺關係も益々多忙にして内地行外國行共に依然として盛況あり本年一月中日本内地に輸出されたるもの四百七十六噸二、浦鹽へ一千二百二十三噸四、マニラへ四百八十噸六、大連へ三十三噸一、上海へ四噸九を輸出せり當市内小賣上等肉二十二錢位なり

◎麥稈眞田

本品は獨逸時代に於て熾んに輸出されたるものなるが戰後は渺々しき商取引を見ず、大正四年中の輸出高は六千七百〇七噸五大正五年に在ては六千三百〇一噸九にして當地目下の商人としては英商怡信洋行、三井洋行、義信洋行最も廣く之に當りつゝあり、市價六分もの六箱百〇六兩見當なり

◎コークス

當方面原產地たる博山の本品は日本内地需要高に伴ひ益々發展しつゝあり殊に從來最も販路として密接なる關係を存せる關東地方に於ける本品の價格は石炭の騰貴せると共に之に友連れとなり加ふるに需要は季節のことゝて彌々増大の方なれば博山コークスの仕向けも亦從て依然として盛況あり去る一月中大阪方面に輸出したる分〇噸三、門司方面に六百九十二噸五、關東方面に四千六百噸一、香港へ二百五十噸、大連へ十噸なり、市價青島船乘十五圓見當とす

◎紙 類

當今本品需要期に入れるも原料騰貴と支那商買氣進まざると舊正月に當りし等のため頗る閑散の方なり、大正四年二月の輸入高百〇六噸五、翌五年同月五百五十八噸三、同六年同月六百二十八噸六にして毎年支那紙の輸入最も多く仕出地は上海を主位とせり

◎煙 草

舊正月に際し奥地筋荷動きよくウヅラ、ヘルメット、スピア、百圓等最も呼ばれ敷島、朝日は昨年内地葉煙の收穫豫想外僅少

なりし結果收納標準價格高價に見積られしと且つ製造方騰貴に伴ひて値上の實行となり當方面に於ける内地葉の原料に基く右二品の成行も自然的影響として三月一日より朝日一盒金一圓〇五錢に敷島金一圓八十錢に値上するの餘儀なきに至れり

◎清 酒

昨大正六年一月の相場として白鶴(四斗五升入)一樽二十九圓、眞鶴二十七圓、東正宗二十五圓と目されたるもの本年同月には白鶴四十圓、眞鶴三十八圓、東正宗三十四圓となり白鶴、眞鶴は十一圓方東正宗は九圓方の騰貴を示せるは全く米價の昂騰と各種容器類原料の値上及工作賃の上騰其他一般的物價騰貴の諸原因に餘儀なくされたる結果に外ならず、而も當方面に於ける需要關係は依然として變動なく寧ろ益々好需の方に於て當業者何れも相當の成績を挙げつゝあり、昨年一月中當地入港船揚荷八十六噸七今年同月百十八噸六なり

◎洋 酒

洋酒中當方面に於て最も需要高きはウキスキーにして毎々高値を告ぐるに拘はらず相當の荷動きあり洋酒としての昨年一月當地輸入高六噸今年同月十五噸二にして主として上海よりの仕入れとす

◎木 炭

内地各種製作工業界の用途燃料として石炭、コークスの需要増大に伴ひ其の價格も亦著しく昂騰し炭價の動搖を來したるは寧ろ必然的結果と目し得べく之に従へ木炭界も亦靜座を容さず

一時内地に於ては本品の需要期に在て多大なる價格の波動を示し之に連れて各地共餘勢を受け當地の如きは輸出元品拂底、船腹不自由、需要増進等の諸因由により木炭價頓に上向きの状態となり素人筋見越扱の細工など出現の形勢なきにあらざりしも一般需要高は總ての陰雲を一掃したるの觀あり、内地に於ても玆許幾分調節の方に於て當地も亦前月よりは幾分安價にて市價日本もの六貫俵金二圓五六十錢より三圓、滿洲もの八貫入一俵上金二圓八十錢中二圓四十錢見當なり

◎材 木

各地共企業建築界の殷賑に伴れ引續き好況を呈し殊に愈よ解氷期に際せるため本品の搬出需要共に大に活氣を帶ぶものあり當方面に在ても益々需要増進の一方にして當業者は玆に大々の買付を計畫し需要向失望の弊を絶無ならしめんとするの狀態に在り尤も此の買付け計畫は新春來大注文殺到のため之に應ずるの一策と目さるゝも兎に角例年結氷期に在りては斯業界至て閑散なるを常とせるに本年は全然之に反したること能く其の需要傾向を體現したるものと謂ふべし、從て今後解氷を得て原産地の製材に當方面の入荷著しきものあるに至らんと觀測さる相場多少上騰の見込みなり

◎石 鹼

當方面本品需要季節は夏期を指し冬期は閑散の方なり本年一月輸入高四十五噸六にして昨年七月の揚荷百十八噸四なり而して日本内地よりの仕入を主位とせり之に對し當地石鹼製造所に在りては目下殆んど對戰の狀態にて販路の擴張に努力し原料品高

に拘はらず廉價製出の途を請し奥地沿線一帯に手足を伸はす意氣込を示せり

◎玩具類

日本製玩具の海外輸出は歐洲戰前より益々好評を得之か製作本場たる東京、大阪方面に於ては著しく繁忙を呈せるものあり、殊に歐洲開戰となりては種々なる因由により一躍本邦玩具の商權を握るの有様となり米國行、濠洲行其他各植民地行共年々輸出高を増大せるものあり、當地に在ては從來一二軒の當業者あり、夏期外人避暑客の來青を機とし最も能く賣行きたる様なるか近時本邦人の兒童増加に伴ひ此種販賣業者も數軒を増し夫々好景氣を呈しつゝあり、製作品も理智的進歩を示すと同時に巧妙なる玩具の仕入れもあり本業の將來は當地に於て決して見捨つるに及ばざるが如し但し鋳力細工ものは場合に據り多少危險を懸念され護謄製のものに人氣あるに似たり

◎三月人形

一體に製作原料品の騰貴に伴れ價格上騰の方なるも年中行事の缺くべからざるものとして各地共好景氣なり、當地に於ても各店相當の成績を挙げ特に花柳界大人筋の買氣は本年當地に限らず各地共流行増大の傾向あり、東京邊にては先づ手堅い家の正札として一番小さい二寸物親王二圓五十錢、官女一圓七十錢、五人囃二圓五十錢、仕丁二圓、隨臣一圓八十錢、之丈揃へて十圓五十錢次に小げし一揃八圓五十錢、けし十一圓、三五が二十圓五十錢の價格を示し昨年よりは一割五分方の騰貴なりと當地は之に運賃其他の諸掛りを加算するものなれば内地と比較せ

ば幾分高値なり

青 島 雜 錄

▲電報取扱時間延長 大港及大鮑島兩局に於ける電報取扱時間は二月一日より本局同様午後十時まで受付をなすことに延長實施されたり

▲夜間船舶入港通知 青島港夜間入港船舶通知電報の取扱は塔運島燈臺より發見し得る限り之か取扱を行ふこととなりしが其料金は晝間料金の二倍なりと

▲竹岔島鑛山探掘者 膠州灣入口臺西鎮前面なる竹岔島の鐵鑛に關しては(一)許可の効力は一ヶ年(二)六ヶ月以内に試掘に著手すること(三)探掘したる鑛石は官の指示を受くる可きこと等の條件附にて出願者明治鑛業株式會社代表者松本健次郎氏に許可さるゝ由

▲最近家屋建築出願 一月中民政置に家屋建築を出願したるものは約八十件にして支那人大多數を占むる由

▲營業出願濫出の弊 當地に於て種々なる業を營まんとするもの漸次増加の傾向あるは青島繁榮の上より見て頗る欣ふべき現象なるも之に連れて亦種々なる不德義の點續出するは遺憾なり即ち民政署に於ては成るべく出願者の便宜を計りつゝあるも一應身元の調査其他上長の決裁を要するため多少の日數を費し後ち許可の指令を發するに當り出願者は早く既に住所を變更し又は行衛不明或は出願者の名義を變更する等當該官憲に迷惑を及ぼすもの少からず是等は飲食店料理屋等の出願者に最も多しと云ふ

▲湯屋組合嘆願提出 當地湯屋組合は月初め集會の上現在湯屋

業者十六軒は人口の割に收支思はしからず之れ一は官吏は多く自宅の浴室を用ゐる所謂錢湯を要する人は比較的少數なるがために維持困難なれば先づ水道料金の低減、淄川炭供給の便宜等特に取計られ度き旨嘆願したる由從て今後此種の出願に對しては充分の考慮を致すべしと云ふ

▲高女本年卒業業者數 青島高等女學校の本年卒業者は三十六名にして更に四月より四年級に進級すべきもの二十名三年級に進出すべきもの三十六名二年級に進出すべきもの四十名にして一年級に入學する分は寄宿舎の新設と共に多數に上る見込なる由

▲水道擴張事業著手 白沙河に於ける青島水道水源地の大擴張計畫は既に調査完了し一月初より水源地並に鐵管布設地の買収に著手し目下大部分を終たれば漸次擴張工事を實施する由

▲青島製粉操業開始 青島製粉會社は既に機械の運轉を開始し製品搬出の運びに至りたるか之が原料は濟南方面より一時水害又は旱魃等のため生産上の被害を免るへからずと懸念されしも幸に品質價格共に影響を受けず豫定通り購入進みたる由猶ほ同工場の製粉能力は一晝夜五百石なるも優に六百石二千六百袋は製造し得へしと云ふ

▲英國の支那馬輸出 英國は軍用馬として先般來支那驛馬の輸出を實行中なるか直隸產のもの津浦線を通して山鐵に來り更に當地著漸次當港經由搬出の筈なりと

▲青島發電所の擴張 青島發電所を現在の二倍大に擴張すべく既に計畫成り之が豫算等も夫々計上主務省の許可あり著々實現すへしと云ふ

▲青島人力車會社株 豫て設立計畫中の青島人力車株式會社は

全株を發起人に於て引受け公募せざることに決定、本月中設立登記を濟せ直に事業に着手すべしと云ふ

▲法院民事裁判件數 守備軍法院に於ける民事訴訟中重なるものは家賃並家屋明渡の件大正四年百十五件、同五年百〇四件、同六年百十件、賣掛代金の件大正四年百二十一件、同五年九十九件同六年百〇一件、貸金の件大正四年五十二件、同五年七十二件同六年八十九件其他なりと

▲ベスト豫防委員會 濟南にベスト發生以來當方面に於ける豫防警戒は愈々嚴重となり二十六日第三回傳染病豫防委員會に於ては、山東鐵道列車は警乘憲兵をして嚴重なる取締監視をなせしめ同時に消毒豫防衣を備付け專屬檢疫醫院一名を乗車せしめ青島驛及女姑口間の汽車乗組檢疫に従事せしむること、各地憲兵隊にては檢病的戸口調査を行ふこと、豫防智識普及のため印刷物の配附及衛生講話を試むこと又發生地たる濟南に於ては危險區域の交通遮斷、檢病的戸口調査、城門の警戒、津浦線に對する乗客の制限、軍隊及び鐵道用地内出入者の取締、使用支那人の外界との交通禁止等但し郵便局は絶對的接觸を避け能はざるときは必要なる處置に出づること又官吏及日本人にして已むを得ず支那人と接觸する場合は必ず呼吸器を使用すること等を決議せりと

▲人事 青島守備軍附陸軍歩兵少佐深見新之助氏は今回歩兵中佐に昇進せり○貴族院議員工學博士井上匡四郎氏は六日來青

九日臺北丸にて出發○森岡參謀長は去る十一日紀元節當日市民會に於て開催せる在郷軍人分會席上一場の講話を致さる○英國陸軍大佐ヘーサン氏は二十五日香港より汽船チンダレアス號にて來青グラントホテルに投宿せり

青島實業協會月報 第 參 號

内外經濟要報

●大阪外國貿易 大阪外國貿易一月以降二月上旬に至る輸出品

價は二千八百八十八萬七千四百三十六圓、輸入品價は一千四百五十萬三千百五十八圓にして出超一千四百三十八萬四千二百七十八圓なりと

●日本石油發展 日本石油會社は今回資本金二千萬圓を五千萬圓に増加し内二千萬圓を舊來の株式に一株に對し一株を割當て

殘餘一千萬圓二十萬株中十九萬株をプレミアム附にて募集し一萬株を功勞者に分配することに決したる由

●輸出制限令 米國大統領は二月十五日布告を發し輸出入共に二月十六日以後總て特許を要することとなり最も輸入に關しては之を禁止する意味にあらずして禁止の品目及び程度等に就ては追て決定せらるべき趣なりとは在米田中代理大使發外務

省着電として報せらる

●化學工業展覽 九州沖繩物產共進會福岡縣協贊會主催化學工業展覽會は來る四月十日より五月九日迄三十日間福岡市西公園停留所前に開設、實業教育の普及發達、理化學の研究應用、發明考案の保護獎勵等に重を置き出品區域を日本全國に及ぼし經費約五萬圓にて稍々大規模の設備をなす由なり

●東洋麻絲創立 支那產の黃麻を漂泊し純白のものとする東洋麻絲紡績株式會社は資本金三百萬圓とし郷誠之助男創立委員長となり計畫中進捗し近く創立總會を開く由

●特別用鹽規則 特別用鹽規則中改正の件は十八日官報勅令第二十號を以て裁可公布せられ同時に大藏省令第七號を以て特別

用鹽規則細則中を改正し二十日より施行すべき旨發布したり

●銅屑拂下結果 大阪砲兵工廠に於て去る十二日執行の三號黃銅錠百萬斤の拂下入札は遂に四十圓五十六錢六厘の高値を以て大阪市田中芳太郎氏の手に落札したる由

●對露貿易激減 大正五年中に一億六千圓の記録を留めたる對露貿易は大正六年に入り贅澤品禁入、爲替禁止、一般禁入と露政府の貿易制限及國內秩序壞亂等の諸原因に依り輸出總計八千七百七十四萬八千六百九十二圓、輸入總計五百六萬八千三百十九圓となり前年に比し輸出六千三百四十二萬八千五百七十八圓の激減を示したる由

●伊國戰費總額 開戰以來一九一七年十二月までの伊國戰費は總額三百十四億四千リラなる旨報せらる

●臺灣產糖實收 臺灣に於ける今期の產糖高は的確なる豫想を知り得ざるも豫想高と實收高とは過去二三年間の經驗に依れば實收高は豫想高に超過するを例とすれども今期の實收額は五百五十萬擔を上らざるべしと云ふ

●新設工業會社 農商務省の調査に依れば一月中に於ける工業會社の新設は百七十社此拂込資本金一千三百六十五萬圓にして前年同月に比すれば九社資本金百二十三萬八千二百八十五圓の増加なりと

●全國地價騰貴 日本勸業銀行の調査に據れば昨年十二月に於ける地價は田地全國平均三百二十八圓、畑地全國平均百八十五圓にして何れも前年よりも騰貴せりと

●日本鹽業會社 は食鹽製造計劃を樹て資本二百萬圓以上を以て新に旅順に製造所を設け大規模の食鹽製造を試み夫々調査中の由

◎大連自由港議 大連自由港の撤廢に就ては其の關係する所頗る重大にして之が可否は具體的調査研究の要ありとなし大連商業會議所に於ては慎重審議中の由

◎滿洲石油商況 滿洲に於ける一ケ年の石油消費は約百五十萬箱にして内最も多數なるはスタンダードの六割、亞細亞の三割とし殘一割は日本品其他なりと云ふ

◎大連管内戸口 大連民政署管内十二月末現在戸口は戸數二萬九千百八十三、人口十五萬四千八百七十七名、内日本人戸數一萬一千百九十四、人口男二萬四千十六名、女二萬六百三十六名なりと

◎滿洲全線收入 去る一月中滿鐵全線に於ける收入は客車收入八十六萬二千七百八十圓貨物收入二百七十一萬一千七百四十二圓、倉庫收入四萬七千三百六十三圓、雜收入十三萬七千五百五十一圓計三百七十六萬一千三十五圓なりと

◎滿鐵一月乘客 滿鐵滿洲全線に於ける一月中の乗車人員は本線四十六萬三千七百六十二人安奉線七萬六千二十人計五十二萬九千二百二人なりと

◎大連帆船貿易 大正六年中の帆船貿易額は入港船六千六百五十七隻總噸數八萬一千六百四十三噸にして此の揚荷五萬一千七百八十二噸出港船六千七百三十隻總噸數八萬三千四百三十六噸にして此の積荷十六萬九千八百八十一噸を算する由

◎昨年の撫順炭 大山坑爆發により著しく出炭量を減せしも支那、南洋、日本に向け輸出されたるもの約三十萬噸朝鮮へ廿五萬噸、而して滿洲に於ける需要は約六十萬噸、社用炭約六十萬噸、同工場用炭廿五萬噸、バンカー約廿萬噸内外なりと

◎大連輸入貿易 大正六年一月より十二月に至る大連港主要外

國品輸入高は三千一百六十三萬八千二百十九海關兩にして之を前年に比するときは八百八十八萬〇五百三十七海關兩の増加なりと

◎大連輸入綿絲 大正六年度大連輸入綿絲布は總價格四百六十二萬六千三百七十四海關兩にして前年に比し五十三萬九千二百六十二海關兩の増加なりと

◎大連輸入麥粉 大正六年度大連輸入小麥粉は二十一萬七千八百五十四擔一百〇八萬九千二百七十兩に上り之を前年度に比するときは數量に於て六割價額に於て七割の増加なりと

◎上海取引所談 奧繁三郎、志方勢七、山本條太郎氏等の談に依れば今回上海に新設さるゝ取引所は總資本金一千萬圓二十萬株にして日本人側發起人二十名にて三萬株を引受け東京、大阪名古屋、神戸の各地にて公募し殘約六萬株を上海にて募集することゝなるべく支那側に於ても極めて好意を表しつつありと

◎天津港口解氷 過日來天候暖きたため天津港より入口の氷は殆んど一掃されたり郵船會社の山東九十四日太沽着を以て解氷後第一着の入港船とすと

◎昨年の鹽稅額 一九一七年支那政府より各國銀行團に支拂ひたる鹽稅額は七千六十二萬七千二百四十九兩にして前年に比するときは百八十一萬九千三百十兩の減少なりと

◎上海石炭相場 上海に於ける石炭相場は貯炭高増加のため價格の調節を得目下粉炭十四弗、塊炭二十一弗見當にして日本よりの輸入は減少の方なりと

◎日鮮運送組合 京城南大門驛出入日鮮運送業者十三名は今回京城運送業組合を組織し同驛に於ける貨物の積卸積揚の統一を計り商取引の便活に資する由

●安東木材輸出 鴨綠江木材公司の調査に依れば安東に於ける十二月中の木材輸出高は支那へ三萬、連朝鮮へ一萬八千九十連なりと

●京城貿易近況 去一月中京城貿易額は輸移出額十九萬八千七百七十四圓餘、輸入百七十六萬四千五百八十五圓計百九十六萬三千三百九十九圓餘なりと

●仁川貿易近況 仁川に於ける一月中の貿易額は輸移出六十二萬五千七百七十圓、輸入百九十五萬五千九十二圓なりと

●朝鮮製粉株數 朝鮮製粉株式會社が去る二月七日より十二日迄内地及朝鮮に於て株式三千五百株を公募に附したる結果は締切迄の申込株は約二萬九千二百五十八に達し募集數の八倍半に達する好況を示せりと云ふ

●釜山貿易旺盛 大正五年釜山貿易は三千八百萬圓、百〇三萬噸なりしが翌六年に至り俄に七千五百萬圓、百四十三萬噸の増進を示したりと

●昨年度大連貿易 大正六年度大連貿易總額は一億四千五百十五萬二千五百五十海關兩にして前年に比し三千八百餘萬兩を前々年に比し五千四百八十餘萬兩を増加せりと

●大連堆貨記録 大連埠頭に於ける堆貨は近時漸く多く去る二月二十一日には實に四十萬一千六百四噸の多數を算し開埠以來の新記録とせらる

●米麥輸出禁止 日本に於ては米、麥、麥粉の異常なる騰貴等のため三月八日より農商務大臣の許可を得るにあらざれば一切輸出を行ふこと能はざる様決定したりと、而して日本よりの一ヶ年輸出高は玄米九千三百萬斤、精米七千二百萬斤其の他の米二十萬斤、燕麥二億五千萬斤、穀粉類五十億萬斤合計五十四億

千五百二十萬斤なりと

●中旬對支貿易 二月二十五日大藏省發表中旬對支貿易額は前年同期に比し輸出は二百四十三萬八千圓輸入同じく二百三十三萬六千圓を増加し差引四百八十萬三千圓の出超を示せりと

●鹽酸加里暴落 鹽酸加里は燐寸界の好況及輸出旺盛の爲め漸勝して六十五七圓處の唱へとなり當時相當の手合行はれたるが其後高値は神戸市場に於て大々的の投げ物現はれ商勢頓に惡化し一氣に五十圓と呆氣なき大暴落を告げたる由報せらる

●工業藥品禁輸 農商務省は内地工業の獨立を圖ると同時に新規工業保護の目的を以て本邦内地より海外に向て輸出すべき工業藥品たる苛性曹達及膠は今後絶對に輸出特許を與へざる方針なりと云ふ

資 料

◎支那の綿絲紡績業

▲沿革 綿絲紡績業は支那に於ける各種新式工業中最も發達せるもの、一にして十九世紀の末葉本邦の紡績が、印度絲との

競争に苦心しつゝ、漸く發達の端緒を得たる時代に於て、當時の北洋大臣たりし李鴻章等の慫慂に依り、輸入防遏の目的を以て上海に資本金四十萬兩の機器織布局を創立せるを以て嚆矢とす由來支那は四億の民を有すと稱せられ、綿絲綿製品の需要多く綿絲紡績業の如き、當然發展すべき運命を有しながら當時にありては進歩兎角遅々として振はず、日清戦争前迄は一般の外國人の内地に於て工場を經營し、又は設立することを許さざりし

を以て、唯だ僅かに支那人經營の紡績工場が鍾數十八萬餘を運轉するに過ぎざりき。然るに馬關條約の結果外國人が機械器具を輸入し、以て自由に各條約港に於て各種の製造工業に従事するの權利を與へたる結果、外資に依る支那各種工業は之れより漸次勃興の端を發し、紡績業亦茲に新たなる機運促進の導火を爲すに至り、爾來外國資本の投下せらるゝもの續出し、支那人亦自らの資本を以て經營するもの漸次増加したり、然るに斯く急激なる勃興は勢ひ原綿の暴騰職工の不足を告げ、然も金融機關の不備により經濟界の恐慌絶えず、原綿人工加水の弊害、勞働效程の劣少、製品販賣法の不備等の原因により、何れの工場も經營難に追はれ成績意の如くならず、缺損に缺損を重ね到底毎期の配當を繼續する能はず、二三年目に申譯的の蛸配當をなすものあり、全然無配當を繼續するものあり、經營慘憺外人工場の多くは資本の切り下げを餘儀なくせられ、米人經營の協隆の如きは額面百兩の株式、遂に一兩に下落したり、支那人經營工場も亦同様の窮境に陥り、或は管理を他に委ね或は資本主を變更し休鍾するもの頗る多かりき、斯くの如き支那紡績の恐慌時代は約十年間を要したるが、日露戰役頃より支那經濟界の活況を來たせると、多年苦辛拮据の結果幾多工場管理の改善を促す處ありたると、年々經濟界が交通機關の敷設其の他各種貨物の需給を容易ならしめたる等の原因により漸次悲況より恢復し殊に革命以來好成绩を見るに至り、新に工場經營に著手するもの輩出し最近長足の進歩をなすに至れり。

▲生産の規模現況

目下支那に於て作業運轉中の紡績工場は三十九工場、鍾數百六萬五千餘鍾にして、既に計畫を樹て機械の全部又は一部到著し、一部運轉を開始せんとしつゝある

もの五工場十九萬餘鍾、機械到着せるも運轉資金に窮し、又は種々なる事情の下に運轉開始の運に至らざるもの二工場、六萬五千鍾、機械を注文し又は計畫せるも、機械の到着不能中の爲め時機の到來を待つもの四工場、八萬千鍾、外に久しく運轉を休止せるもの一工場、一千百鍾あり、而して此等計畫中のものにして完成し其運轉を見るに至らば、百四十萬二千三百三十六鍾に達すべきなり。尙此等紡績工場中織布を兼營するもの十一工場、臺數五千四百四十二臺、外に計畫中のもの七工場四千四百五十臺あり、今其資本額、鍾數等を表示すれば左の如し

設立年	名稱	位置	經營者	資本金	鍾數	織機數
一八九五	怡和	上海	英國人	1,500,000	七四四〇	七九
一九一三	楊樹浦	同	同	1,500,000	五五六三	四二
一八九五	老公茂	同	同	800,000	四〇九六	三〇
一八九五	東方	同	支那人	1,000,000	五七六八	二五
一八九五	三新	同	同	2,100,000	六五五二	九六
一八九六	上海第一	同	日本人	2,000,000	二〇三三	三六
一八九五	上海第二	同	同	2,000,000	二五八〇	五〇
一九〇七	上海第三	同	同	2,000,000	五九二八	一〇〇
一九〇七	公益	同	英國人	2,500,000	二五七六	五〇
一八九〇	恒豐	同	支那人	500,000	一五七六	三〇
一八九五	鴻源	浦東	英國人	1,000,000	六〇五六	五〇
一八九五	裕源	上海	支那人	200,000	二六九六	一〇
一九〇〇	裕通	同	同	500,000	一八二〇	三〇
一九〇六	振華	同	同	800,000	一三二〇	一〇
一九一一	內(外三工場)	同	日本人	1,000,000	X 1,000	一〇
一九〇七	恒昌源	同	支那人	1,000,000	九元二	一〇
一九〇七	同昌	同	同	200,000	一一〇〇	一〇
一九一四	德大	同	同	200,000	一〇六六	一〇
一九一五	鴻裕	同	同	1,000,000	一〇〇〇	一〇

[illegible]

×印は計畫中又は最近一部運轉を開始せんといふあるもの
△印は休轉中のもの

以上の外既に計畫を樹て敷地を買收し、或は設備機械購入の可能を待つて資金を投下せんとしつゝあるもの亦少からず、上表中之を經營者の國別より見るに、運轉中のもの英人工場五、錘數二十五萬六千錘、日本人經營工場五、錘數十五萬五千錘、支那人經營工場二十九、六十五萬三千錘にして既に相當の成績を挙げ、製品の品位侮るべからざるものは日英人經營の工場にして、内外綿、上海紡績、怡和、楊樹浦、公益等なり。支那人の經營工場は概して流通資本少く亦宜しきを得ず、一旦經濟界の不況に遭遇すれば忽ち其維持困難を訴へ休錘賣却等頻りに行はる、之れ工場内の不整頓、製品の不整一、機械修理の不完全、原料買付及製品販賣の不備に因るものにして、生産額の如き外人經營のものに比し六割乃至八割に過ぎずして、幾多改良を要すべきもの少からず、今經營者別による錘數を表示すれば左の如し

運轉中のもの

計畫中のもの

日本人經營のもの

五工場

一五五、八七二鍾

三工場

一〇〇、五九二錘

英人經營のもの

二五六、五八〇

1

1

支那人經營のもの

1

六五三、二九一

九

三三六〇〇

信

三九

〇六五、七四匹

171

三三六、五九二

紡績機の種類

▲紡績機の種類　本邦に於ける紡機は近時稍雜駁となりつゝあるも、從來設備せられたるもの多くは、プラット式にしてハワード式之れに次ぎ、殆んど一定せるの觀ありたることは今更云ふ迄もなきことながら、之れ一面に於て本邦に適當せる紡機が、紡績業をして急速の發達を爲さしめたる一因なり支那に於ける紡機は其鍾數に比し極めて多岐に渉る、即ちプラ

ツトブラザー、アサリース、トキドルスモレー、ハーワード
ブロー、ドブソン、ブロックスドキシ、ヘザリントン、サコ
ロウヘルあり、然も一工場に於て併用せるもの少なからず、勿
論本邦に於ても二三種製造會社の異なるものを併用せるものな
きにあらざるも、特に支那に於けるものは其特徴を利用せるに
あらずして、之れが設立擔當者が全く技術上の觀念なく、其製
品の上に及ぼす影響等を顧慮せず、只設備費の都合上たるもの
少からざるやに聞く、之れ亦設立後經營上に良果を與へざりし
一因なり

▲製品の種類及生産額 支那紡績會社の多くが紡絲する
綿絲の種類は十番、十二番、十四番、十六番及二十番なり、此外
急和、老公茂、内外、徳大等の各紡績工場に於ける三十二番、
怡和、揚樹浦等の四十二番双等あるも其の量多からず、而して
此等各紡絲の割合は正確に知るを得ざるも、十四番最も多く十
六番之れに次ぎ、其の他の番手のもの各相當伯仲するもの、如
し、全生産額は之れ亦知ることを得ざるも、前述生産の能率及
市場出廻りの狀況よりして、大約年額七十萬俵内外と見ば大差
なからんか而して今や既に相當の成績を挙げ市場に於て本邦品
と拮抗して輸贏を争ひつゝある綿絲の種類を擧ぐれば左の如し

二十番	水月(内外)	三星(公益)	余三星(上海紡)	紅龍(怡和)
五福(怡和)	牧羊(楊樹浦)	寶塔(徳大)	天官(老公茂)	
探花(三新)	双熊(鴻源)	西湖(鴻源)		
十二番	水月(内外)	双虎(上紡)	得利(三新)	丹鳳(鴻源)
鐵錨(東方)	文明(東方)	人鐘(申新)	紅寶塔(徳大)	
黑寶塔(徳大)	寶鼎(鴻裕)	紅團龍(三新)	紅龍(怡和)	
織女(廣勤)	牧羊(怡和)	飛鳥(恒昌源)		
三十二番	水月(内外)	寶塔(徳大)	双象(振華)	

上海附近の紡績工場に於て製造せらるゝ綿布中主なるは粗布及
び金巾類にして次で多きは綾木綿なり、細綾木綿、綿ネル類も
亦多少製産せらるゝ、粗布は幅三十五吋二分の一乃至三十六吋長
さ四十碼十一封度乃至十六封度物にして、就中製産多きは十四
封度乃至十六封度物なり、原絲は經十二番、緯十四番なり、綾
木綿は幅二十九吋三十吋、長さ四十碼十二封度乃至十六封物製
産せらるゝも、最も多きは十三乃至十四封度にして原絲は粗布
に同じ、細綾木綿幅二十九吋三十吋長さ四十碼にして十三封度
内外のもの多く經十八番緯十九番、ネル地幅三十吋より三十六
吋に至る各種あるも、三十吋最も多く四十碼九、十三封度内外
のものなり、原絲は經絲十八番緯絲十八番を使用す、而して此
等綿布の製産額は正確に知り得ざるも大約一箇年左の如く概算
さる

粗布金類 五萬捆(二十反入として) 綾木綿 二萬捆(同)
細綾木綿 三千捆(同) 綿ネル 一千捆(二十反入として)

以上の外天竺幅三十一吋長さ二十四碼にして、六封度内外のもの
のあるも其量多からず、今重なる工場に於ける製産品及び其商
標を擧ぐれば左の如し

怡和紗廠	三魚(粗布十一封度物)	双象(同十三封度)
	双翼(同十五封度物)	九天(同十六封度物)
	鷹虎(綾木綿十三封度物)	恭喜(同上十四半物)
	算盤(細綾木綿)	
楊樹浦紗廠	五福(粗布十六封度)	三兔(同十一封度)
	双牛(同十五封度半)	三兔(細綾木綿)
	双象(粗布十三封度)	羊頭(粗布十一封度)
公益紗廠	双象(綾木綿十二封度)	藍鷄(細綾木綿)
鴻源紗廠	單鐘(粗布十六封度)	双鐘(粗布十五封度)
	丹鳳(粗布十一封度)	丹鳳(粗布十三封度)

雙魚 (粗布十一封度)	貓蝶 (粗布十一封度)
三星 (綾木綿十二封度半)	
三新紡績	
五馬 (粗布十六封度)	四馬 (同 十五封度)
三馬 (同 十四封度)	雙馬 (同 十三封度)
雙馬狗 (同 十三封度)	人塔 (綾木綿十四封度)
鹿鶴 (同 十五封度)	人馬弓 (同 十六封度)
上海紡績	
五馬頭 (粗布十五封度半)	三馬頭 (同 十四封度半)
單牛頭 (同 十三封度)	單虎 (同 十二封度)
藍鷄 (同 十封度)	雙虎 (綾木綿十三封度)
五元寶 (綾木綿十六封度)	松鼠 (細綾木綿)

製品分布狀況

支那に於ける綿絲布の製産額は前述概數額を擧げたるが其の殆んど全部は附近に於て販賣せらるゝか又は支那内地の他地方に輸送せらるゝ、而して海外に輸出せらるゝものは極めて少量に過ぎず、今最近五年間上海の各工場製品にして海關又は陸關を通じて輸出せられたる數額を表示すれば左の如し

海關を通過して移出されるもの

常關を経て移出されたるもの

	粗布	綾木綿	綿絲	綿絲
大正元年	五二、三六八	七五、五七七	四八、五八八	八六、三四〇
大正二年	四〇、四〇九	一七〇、〇四五	四〇、八九五	六二、〇三三
大正三年	五二、七九四	二二〇、一八九	六六、二六七	三三、五三三
大正四年	六六、九九二	二九四、三三八	六七、二六三	三三、四〇一
大正五年	八七、二六六	三六三、九一二	七六、六九二	三三、七一

常關を經由せるものゝ中には外國品の再輸出を含むが故に上記を以て全部が支那紡績工場の製品なりとは云ひ能はざるも、海關を通じて年々移出さるゝ製品が非常なる勢を以て増加しつつあることは明かに支那の紡織業が近年長足の進歩發展をなしつゝあることを證するものなり

而して海關經由輸送せらるゝ綿絲の主要市場は長江沿岸にては

重慶、九江、漢口、蕪湖及び北支那膠州、天津等にして、粗布綾木綿は長江沿岸重慶、長州、漢口及び寧波、北支那の牛莊、天津、芝罘等に多く、金巾は寧波及び長江沿岸に重に仕向らる今此等支那製品が大正五年に於て分布せられたる狀況を表示すれば左の如し

計の	生金巾	粗布	綾木綿	綿絲
安東	二四	六八六	二七、〇五	八七六
大連	七〇	三、七四	六、〇一	一、二六
牛莊	二、二〇	一五、三六	五、二〇	二、〇三
天津	八、三〇	一、九九〇	六、〇四	一、八九六
芝罘	九、四〇	八、四四〇	一〇、五二	一、八八
膠州	三、〇〇	三、六九〇	六、六九	三、〇六九
重慶	一〇、二	一〇〇	一、〇六	一、九四〇
宜昌	六、三	一〇〇	四、四	三、六四四
沙市	一、六〇	一〇〇	一、七〇	一、六二〇
岳陽	一、六四四	五、七三	一、九四六	二、九三九
漢口	六、四〇	五、九三〇	五、四九〇	八、八〇六
九江	八、八〇	五、二六〇	二、五八〇	一〇、七二四
蕪湖	二、六六	四、六六〇	七、〇五	七、七三
鎮江	三、四八	三、三八三	六、七〇	一、八〇三
上海	二、五〇	三、四〇	六	四、六
寧波	二、五九四	一、九四九	三、二〇	八、七七
福州	三、〇	一、二〇〇	七、〇五	九、五六
廈門	五〇	一、二〇〇	四三	一、二四八
汕頭	七〇	一、五〇九	六	一、五八
廣東	三、四〇	八、〇九三	一、二〇	三、三
其他	九、二五二	八、八三六	三、六〇〇	七、九二四

▲原料の供給

原料たる棉花は支那に於ける主要物産の一にして支那紡績工場の多くが内地産棉花を主要原料とし、只夏時七月乃至九月に於ける在荷少き時に際しては印度棉を半ば使用するものあり、されど原料の騰貴又は在荷薄に際しては一部休鍾、或は夜業休止をなすもの少からざるが故に、大體に於て先づ支那棉を原料とすと云ひ得べく、而して云ふ迄もなく支那棉花は概して纖維短く、其品質米棉、印度棉に比し劣等たるを免れず、故に外人經營工場及支那人工場の二三は平時に於ても米棉印度棉を混用しつゝあり

支那棉花の産額は確たる統計なく各人云ふ處區々たるも、其量豊富にして殊に阿片栽培禁止の結果、作付區域著しく擴大し年額八百萬擔位に達すべく豫想せらる、内海外に輸出せらるゝもの一箇年六七十萬擔にして、外國棉花の輸入は四十萬擔（印度棉二十七八萬擔、米棉五六萬擔）に達し、棉花の輸入は漸次増加しつゝあり

如斯豊富なる原棉を有するが故に、支那内地に於ける紡績業の經營は、原棉の運賃關稅等に於て綿絲一俵に付四五圓を節約し得ざれど、原料供給に付支那紡績業が最も不便を感じるは、其の商機關薄弱にして先物を約定し能はざることなり、而して外國棉花を使用する場合に於ては、運賃の外更に輸入税一擔六分を負担するが故に、綿絲一俵に付三、四圓の高價となる譯にして、支那に於ける棉花輸入税の高低及び之れが供給機關の整備如何は、斯業の盛衰に至大の關係を有す

▲職工

職工の賃銀は各工場により一定せず、上海の各工場は他の地方に於けるよりも比較的高く、又外人經營のものは支那人經營のものに比し高價を仕拂ふ傾向あるも、尙一人一日平

均二十仙乃至三十仙位なり、目下爲替相場の關係に於て割高なるも平時に於ては我内地紡績工場の五六割に當り、何れの綿絲布製産國に於けるよりも低廉なり。

勞働時間は機械部に於ては十三時間を普通とするも、紡績部は晝夜交代なるを以て、十二時間交代時間を除き、正味十一時間半にして、機械部は食堂に於て飲食せしむるも、紡績部は就業しつゝ、隨時食を取り別に休憩時間を與へず、故に就業時間は一 generally 長し、されど支那職工は本邦の女工が、棉埃の儘歸路に着くが如きことなく一般に體裁を飾るが故に、交代時の前に當りては監督者の目を盗んで運轉を休止し衣髪を整へ居るもの少なからず

支那職工は前記の如く賃銀安きも、其勞働能率著しく劣惡にして、不統一なりとの譏あるも之は一概に斷じ能はず、勿論本邦工場に比し多くの職工を使用せるも、其柔順にして手先の器用なる本邦職工に劣らざるものあり、彼等固有の特性を研究し、其長所を利用するに於ては良工を得んこと難からず、只支那の各工場は一般に宿舍を備へず、之支那人の通有性として寄宿を許可さるゝものあるに由るものにして、職工は多く工場附近に住居し通勤するを普通とせるを以て自然缺勤等勞力の一定を期し能はざる點なきにあらざるも、中には熱練せる職工にして家庭をなし通勤するものあり、殊に工場法の如き勞働時間又は年齢を制限すべき法律なく、幼年の子女にして其父母と共に一臺の機械を運轉せるものありて一般に其勤績年限は本邦に比し長しと云ふ。

職工の保護獎勵に就ては今日迄職工の慰安、或は其他の設備をなせるものなし、只業務上の負傷は工場主に於て經費の負擔を

なし、又皆勤二週間の者に對し一日分の賃銀を増給するが如き制度を採れるものありて、却つて賞與制度よりは罰金制度によりて繁害を矯正しつゝあり。

▲生産費

前述の如く支那の紡績職工は、賃銀割合に低廉なるも能率多少劣惡にして、同一工程に對して比較的多數の職工を要し、且つ機械或は消耗品の取扱粗亂なるの傾きありて工費としての失費多く、又原棉の買入に於ても資本の固定或は不便あり、落棉の利用充分ならず、動力費に於ても本邦に比し不廉なるを以て生産費は割合に高く、十六手に於て平均十五六兩を要す。

▲綿糸輸入狀況

支那は世界に於ける綿絲布の最大需要國にして、其輸入高は二億兩に垂んとし、支那の輸入貿易品中重要なる位置を占め、純總輸入高の三割乃至四割を占む、就中綿絲の輸入高は綿製品の輸入總額の三割五分に當り、九十萬俵七千萬兩に達す、今や内地に於ける紡績業の勃興せるありて年六七十萬俵の綿絲を供給するに至れるも、其輸入額は之れが爲めに幾分減少の傾向あるも大なる影響を蒙らざるに似たり、只最近に於ては歐洲戰亂、或は支那内地に於ける擾亂の爲め幾分の變態を來たせるを以て、果して支那の需要額に適應すべく輸入されたりや否やは明かならざるも、最近年に於ける輸入額を擧ぐれば左の如し。

年	數量	價額	瓦期絲、シルケツト、染色絲
大正三年	二六九二萬担	六八七〇七五兩	二〇、七二
大正四年	二六四九萬担	六八、八五九三	二〇、七二
大正五年	二四九〇萬担	六〇、二九二八	二七、八〇

他は一小部分に過ぎず、瓦斯絲、シルケツト類は之れ亦殆んど日本の供給する處に係る、大正五年に於ける重なる仕出地の輸入高を示せば左の如し。

地	數量	價額	瓦期絲、シルケツト、染色絲
香港	六四四一担	一四八、九四三兩	二八、四〇
澳門	二〇九三担	二四、〇〇〇	三〇〇
安南	二九八八担	五三、六四三	—
印度	五三、五〇四担	三八、四六八兩	—
日本	二、六七三五担	三八、六四四二	二五、三〇
其他	—	—	一六、八五二
計	二四九〇萬担	六〇、二九二八	二七、八〇

印度より輸入する綿絲は八番、十番、十一、二番のもの多く、十四番、二十番又少量あり、日本よりするものは十六番、二十番多く、支那に於ける需要又此等番手のもの多し、近年漸く三十二番、四十二番の二子及び三子六十番等輸入せられ漸次増加の傾向あり。

▲支那紡績の將來如何

支那紡績業の現況は概略ながら記述せる如く、其進歩近時著しきものあり、されど未だ以て眞に發達せるものと云ふべからず、今尙綿製品の海外より輸入せらるゝもの年々二億萬兩、綿絲のみにても六七千萬兩に達し而も支那内地の生産額は漸く其の三分の一乃至四分の一に過ぎずして、今後益發達すべき運命を有することは疑ふの餘地なきも、仔細に觀察すれば經營上多少の障害なきにあらず、之れが内容を概述し其將來をトせんトす。

一、由來支那は政變常なく地域膨大にして國內の秩序亂れ易く加之對外爲替の變動常なき等人爲的に需用の障害あり、且つ需用者の多くが農民なるを以て、農作物の豐凶により購買力に消

長の差激しく、然も此等缺陷は今後も容易に改善せられざるべく、從つて需要は將來に於ても一進一退を免れず、増設に伴ふて製品の過剰に苦しむが如き場合ありと見ざるべからざるも、需要の消長は何れの國に於ても有勝のことにして敢て支那に限られたるにあらず、況んや前述の如く年々多大の輸入額あり、廣大なる販路を有するが故に需用の多少の増減は、支那紡績の基礎を危ふするが如き甚大の影響を及ぼすものと速斷し能はず。支那は原料棉花の產地として多大の産額ありと稱せらるも現時市場に出廻る棉花は現時の鍾數に對し既に不足し、殊に其市價が米棉の豊凶に左右せられ、支那の棉作者が自國棉花の作柄により市價を自由にし得ざる立場にあるを以て、收入の不安定なる棉花の増加が、穀物の作物を減少して迄も増加すべきや否やは疑問に屬し、其の纖維は短くして粗く到底細糸の紡出に適せず、海外輸入棉花に對しては輸入税を有し然も支那現時の財政上且つ農業本位國なる點より見て近き將來に於て輸入税の廢止を見んこと困難ならんかと思はる、斯く觀じ來れば原棉の供給に就ては全く望みなきが如くなるも、由來支那に於ける農作物の市場出廻り高は一の基準となる數量なく、相場の出合により無限に集散せらるゝことは各種の農作物に付立證せらるゝ處にして、殊に近年阿片栽培禁止せられて以來、阿片畑の棉花畑に變せるもの少からず。

支那政府又各地に棉業試驗場を設け、主棉種の栽培に力を致しつゝあるあり、且つ良原棉の不足は米綿、印度棉等の輸入によりて多少の調節をなし得べく、將來原棉の供給は左迄難事にあらずとも感ぜらるゝ、只輸入税の存廢如何は支那紡績業に甚大の影響を及ぼすべし。

海外よりの原棉の供給前述の如く、輸入税の爲め不利の地位にあり、又支那原棉が細絲紡出に適せずして其製品が主として二十番以上の太番手に局限せられざるべからざるに拘らず、綿製品の需要は次第に嗜好の向上に伴はれ、太番手物より細物に進むは自然の傾向にして、現に需要は最近著しく此傾向を示しつゝあり、又現在南支那一帶の地は民度及氣候の關係上太手物の需要少く、支那紡織製品の需用は殆んど北支那及長江沿岸地方に限らるゝを以て、嚴密なる意味に於て支那紡績品の需要地は支那全部にあらず、且太物のみに於ては嗜好の向上に伴ひ、其の市場を狹隘ならしむるの感あり、又現時の支那製品は主として十番乃至二十番の如き太番手に局限せられ、二十番手以上の細絲中絲の紡出、其他加工精製品の製出に至りては、從來の舊式工場機械を以てしては不可能的狀態にあり、故に將來支那の農業及科學上の進歩により、良綿の輸出を増大せしめ、又新式機械の購入其他相當の設備をなすに至る迄は、各國精製品の支那市場に活躍すべきは言を俟たざるも現在に於て支那紡績が相當發達を示せりとは云へ未だ以て外國製品と對抗して其覇を爭ふ上に於て充分の基礎根底を有せず、過渡時代にあるに拘らず、尙既に太絲に於ては相當の成績を示し、本邦品の販路を蠶食しつゝあることは事實にして、殊に外人經營の紡績工場の如き、支那棉に適當すべく、機械の改良をなしつゝあるに徴し將來太番手より漸次中絲に迄も進むべきは言を俟たず、且つ太絲の販路は多く北支那及長江沿岸に限られ、民度の向上ありとは云へ然く急速に太絲の需要全く減少するものとは見る能はず故に今後支那紡績は先づ支那の原棉を主要原料とし、太番手の製出に於て好成績を舉げ得べく見るを至當とせん。

三、支那に於ける棉花、棉絲、綿布商の財産は基礎薄弱にして原料の仕入及製品販賣に於て賣買約定をなし能はず、市場悲況に陥る場合は紡績業者は製品賣約濟なるに拘らず、引渡困難にして唯に利子、保険料、倉敷料等を無償にて負擔することゝなるのみならず、時としては賣約定品の無條件解除をなすの止むなきに至ることあり、斯く先約定頗る不安全なるを以て、日本の紡績業の如く見込を立て先約定を以て、絶へず利益の安全を保ち得る特點は支那の紡績には全く之を有せず、故に支那紡績の利益の不確實なるは免れざる處にして、近き將來に於ては之れが改善を見るは困難ならんと説くものもあるも、現に歐洲戰亂以來製品の拂底は本邦の有力なる綿布商にして印度綿絲及支那糸の取扱を開始せるもの少からず、原棉に付ても亦然り、故に今後紡績業の發達と共に確實なる取引をなし得るに至るべきを疑はず。

四、綿絲布製産各國が原料棉花の輸入税及完成品の輸出税を免除し、又外國製品の輸入に對しては重税を課する等、務めて國內紡績業の發達を保護せるに拘らず、支那に於ては此等の保護に付何等施す所なく且つ日本及印度の紡績業は支那紡績業を閉鎖し、先進綿布製産國は自國內に利益を求め過剰の産額を支那市場に賣崩さんと試みつゝありて、將來各國紡績業の發達は益支那紡績の發達を壓迫すべく思はるゝも現在の狀況に於て既に相當の發達を示せるもの、更に最近關稅改訂の議あり其の程度の緩和せらるゝに於ては、更に發展すべきは疑を有するの餘地なし。

五、職工は無教育にして盜賊根性強く而も移動常なく、支那の家族制は寄宿制度を困難ならしめ、職工の養成困難にして能率

少く、從來支那職工の美點たりし從順、勤勉の田舎者の朴直なると同様にして、精練せられたる從順にあらざるを以て社會の風潮に連れ變化し、近時思想上の變化に伴れ此從順なる美點の減退を見るに至りたるを以て、從來職工需要増加に伴ひ益々良職工を得ること困難なるに至るべしとの説もあるも、之は一概に斷し能はず、管理の困難、勞動能率の低き、良職工養成の困難等は必ずしも避くべからざる短所にあらず、又盜賊性の如きも防止し得可からざる問題にあらず、現に日本人經營の工場に於ては彼等固有の特性を研究し良好の成績を擧げつゝあるのみならず、勞銀の低廉にして勞働者の豊富なるは本邦の比にあらず募集費、宿舍設備等の失費なきことは此等の短所を補ふて餘りあり。

其他氣候濕潤にして然も寒暑の差激く、原動力の重要素たる石炭の高價等危惧する者あるも、氣候の變化は今日の技術に於て相當の設備をなし得べく、石炭に於ても今や撫順、開平炭等供給の便開けたるあり今後大なる支障を見ざるや必せり、以上よりして支那紡績業は經營上尙多少の支障なきにあらず、之れが一掃は至難なるも或程度迄は緩和調節し得べく、斯業の將來は決して悲觀するに足らざるは勿論、寧ろ其好望有利なる前途に想倒せざるを得ず、即ち各工場に今日迄の缺陷ある下に、既に相當の成績を擧げ外品を驅逐しつゝあり、殊に關稅改訂に至らんか更に有利なる狀態に入るべく、今後益發展すべきは今日迄の斯業の進歩發展の事實に徴して推知し得べし、而して支那紡績の發達と共に看過すべからざるは、支那市場を最大得意とせる我紡績業に對し甚大の影響を及ぼすを以て、之れが結果に付ては本邦の斯業者は充分の覺悟なかるべからず。(吉岡技師報告)

◎芝罘地方落花生收穫狀態

大正六年十二月二十四日附在芝罘帝國領事代理副領事益子齋告氏の

芝罘地方落花生收穫狀況に關する報告左の如し

當港輸出品の大宗たる落花生の作柄に關して支那當業者の報する所左の如し

大正六年の落花生は例年に比し約一ヶ月遅延して市場に上りたる爲め例年出盛時期を見越して各地關係當業者の出入繁忙を極むる筈の季節に於て一頓挫を來たし今尙市場の段賑を見る能はず蓋し此主因は夏季早魃に依り一般播種期を遅延せしめたるに因るは疑ふへからざる所なるも收穫の多少は必ずしも之れのみと云ふ可からず、即ち價格の高低及金融狀態の如何は俱に與かりて力有りたることを論を俟たず、播種期の遅延は早魃による氣候の變動に起因せるが、之等の現象は例年往々見る所にして、本年に限りたるにあらず收穫期を取急ぎ其十分なる發育を待たずして收穫したるは亦不豐を免がれざりし一因なりしならん、現に大正六年の落花生生産は各地生産均しく不良に終り、市場に上りたるものは成熟を待たずして收穫したる穀實の輕きものにて、味の劣りたるものたり、又大正六年は早魃ありたるにも拘はらず其後降雨の爲め水害を被りたるものは兎に角、其然らざる地方は枝蔓の發育狀態頗る良好なりしより、播種の遅延如何に關せず收穫良好を豫想せしに反し枝葉の繁茂は徒に外觀の美を装ひたるのみにして、結實良好ならず、是れが爲め各原產地より濟南市場に集る所の落花生は頗る僅少にして、例年は鐵道貨車に毎日二、三十輛を滿載せるも僅に二、三輛のみとなり、

又河南方面より民船積にて濠口に到るもの等は頗る寥々たり、其原因は收穫遅延及收穫不良に因るは勿論なるが一面農作者が穀實の不豐より之れを市場に出すを避け、寧ろ歐洲大戰により落花生油の價格が日々騰貴せるより之れを製油に供するもの多かりしが故にて統計の上より見れば大正六年市場に現はれたるものは例年に比し甚だ減少せるが其實耕作地域に至りては製油騰貴を見越して他の作物を棄て落花生を播種せし處も少なからざりしと云へば、總體より見れば寧ろ大正六年は多量の産額ありしなるべきも其多くは歐洲向製油の原料に供せられたるもの多かりしものゝ如し。

法 規

○青島不動産證明規則

(大正六年一月二十六日
軍令第二號)

第一條 不動産ニ關スル權利ノ設定、保存、移轉、變更、處分ノ制限又ハ消滅ハ相續又ハ遺言ニ因ル場合ヲ除クノ外本則ニ依リ證明ヲ爲スニ非サレハ其ノ効力ヲ生セス但シ相續又ハ遺言ニ因ル場合ト雖モ證明ヲ爲スニ非サレハ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

證明ハ青島軍政署ニ於テ之ヲ行フ

第二條 證明官署ニ左ト帳簿ヲ備フ

一、土地證明簿

二、建物證明簿

三、受付簿

第三條 證明ノ申請ハ當事者又ハ其ノ代理人證明官署ニ出願シ

テ爲スヘシ但シ判決ニ因ル證明及土地收用ニ因ル所有權移轉ノ證明ハ證明權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

證明權利者カ證明義務者ト共ニ證明ヲ申請スヘキ場合ニ於テ證明義務者ノ所在不明ナルトキハ其ノ事實ヲ疏明シテ證明權利者ノミニテ之ヲ爲スコトヲ得

第四條 證明ヲ申請スルニハ左ノ書面ヲ提出スヘシ

一、申請書

二、證明原因ヲ證スヘキ書類

三、證明義務者ノ權利ニ關スル證明濟證又ハ之ニ代ハル書類

四、證明原因ニ付第三者ノ許可同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ之ヲ證スル書類

五、代理人ニ依リテ證明ヲ申請スルトキハ其ノ權限ヲ證スル書類

六、土地又ハ建物ヲ表示スヘキ圖面

第五條 申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スヘシ

一、土地ニ關シテハ所在地名、地番、地目、面積

二、建物ニ關シテハ所在地名、地番、建物及附屬建物ノ種類構造、建坪

三、價額

四、證明ノ原因及其ノ日附

五、證明ノ目的

六、申請人ノ氏名、原籍、現住所、法人ニアリテハ其ノ名稱事務所

七、代理人ニ依リテ申請スルトキハ其ノ氏名、住所

八、申請年月日

九、證明官署ノ表示

第六條 證明ヲ爲スニハ受付番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ證明簿ニ登錄シ申請書ノ副本ニ證明濟ノ旨ヲ記載シ之ヲ證明權利者ニ還付シ其ノ要領ヲ證明義務者ニ通知スヘシ

第七條 證明完了後錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ當事者ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル者ハ速ニ證明更正ヲ爲スヘシ

第八條 何人ト雖證明簿ノ謄本及抄本ノ下付ヲ請求シ又ハ利害關係アル部分ニ限り證明簿又ハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

第九條 本則施行ニ關スル細則ハ軍政長官之ヲ定ム

附 則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○不動産證明ノ手数料ニ關スル件

(大正六年一月二十六日
青島軍政署署令第二號)

第一條 不動産ノ證明ヲ受ケ又ハ證明簿ノ謄本、抄本ノ下付證明簿若ハ其ノ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スルトキハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

一、證明ノ申請

每一件銀一圓

二、謄本又ハ抄本ノ下付

每一枚銀十錢

三、閱覽

每一度銀十錢

第二條 前條ノ手数料ハ現金ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○官有土地貸下規則 (大正六年二月十三日
軍軍令第五號)

第一條 官有土地ノ貸下ハ別ニ規定アルモノノ外本規則ニ依ル

第二條 官有土地ノ貸下ハ軍政施行ノ區域内ニ居住シ又ハ管理
人ヲ有スル者ニ限り之ヲ許可ス

第三條 官有土地ノ貸下ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ軍
政長官ニ願出ツヘシ

一、出願者ノ住所、氏名、職業、生年月日

二、地名、地番及所在地附近略圖(梯尺二千分ノ一以上)

三、所要坪數及豫定建設物ノ種類、構造、坪數又ハ事業ノ計
畫

四、使用ノ目的及使用期間

五、事業著手豫定期日及竣工豫定期日

第四條 借地人ハ土地ノ引渡ヲ受ケタル日ヨリ五ヶ月以内ニ其
ノ施設ニ着手スヘシ

季節又ハ特殊ノ事由ノ爲前項ノ期間内事業ニ着手スルコト能
ハサルトキハ更ニ期限ヲ定メ軍政長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ
其ノ期限ハ土地ノ貸下ヲ受ケタル日ヨリ八ヶ月ヲ超ユルコト
ヲ得ス

第五條 借地人ハ借地ヲ轉貸シ又ハ借地權ヲ讓渡スルコトヲ得
ス

但シ地上物件ヲ現存ノ儘他人ニ讓渡セムトスルトキニ限り
軍政長官ノ許可ヲ得テ其ノ借地權ヲ讓渡スルコトヲ得

第六條 借地人借地ノ使用目的又ハ建設物ノ豫定計畫ヲ變更セ
ムトスルトキハ軍政長官ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 貸下地ノ埋築切取り其ノ他土地ノ原形ヲ變更シ又ハ電

柱若ハ埋設物等ニ障礙ヲ及ホスヘキ工事施行セムトスルトキ
ハ軍政長官ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ願書ニハ設計書及圖面ヲ添附スヘシ

第八條 借地料ハ土地引渡シノ日ヨリ之ヲ官ニ返納シタル當日
マデノ期間之ヲ徵收ス

第九條 借地料ハ毎年一月、四月、七月、十月ノ四期又ハ一月
七月ノ二期ニ分チ之ヲ徵收ス借地人ハ每期ノ終了前十日以内
ニ次期ノ借地料ヲ納付スヘシ新ニ土地ノ貸下ヲ受ケタルトキ
ハ其期ニ屬スル借地料ヲ即納スヘシ

第十條 貸下期間内ト雖官ニ於テ必要ト認ムルトキハ借地料ヲ
更改スルコトアルヘシ

第十一條 公用ニ供シ又ハ祭祀、宗教、慈善、衛生、技藝其ノ
他勸業ノ爲官有土地ヲ貸下クルトキハ借地料ヲ減免スルコト
アルヘシ

不可抗力又ハ官ニ於テ相當ト認ムル事由ニ因リ借地ノ全部又
ハ一部ヲ使用スルコト能ハサルトキ亦前項ニ同シ

第十二條 貸下地ハ公共事業ニ供スル爲又ハ官ノ必要上返納ヲ
命スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ借地人ハ遲滞納付ナク之
ヲ返納シ借地上ノ建築物又ハ施設物ニ對シ官ノ査定シタル移
轉料及前納地代ノ外借地人ハ別ニ何等ノ損害賠償ヲ要求スル
コトヲ得ス

第十三條 借地人ハ借地期間内ト雖一箇月以前ニ届出ヲ爲シ借
地ノ全部又ハ一部ヲ返納スルコトヲ得

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ全部又ハ一部ノ借地
權ヲ取消スコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ既納ノ借地料ハ之
ヲ返還セス

一、第四條ノ期間内ニ其ノ施設ニ着手セス又ハ一年以内ニ竣工セサルトキ

二、第五條乃至第七條ノ規定ニ違反シタルトキ

三、借地人退去ヲ命セラレタルトキ又ハ居住ノ事實ナキニ至リ管理人ヲ置カサルトキ

四、借地人許可ナクシテ借地上ニ有スル地上物件ノ所有權ヲ移轉シタルトキ

五、借地料ヲ滯納シタルトキ

六、前各號ノ外本規則ニ違反シ又ハ本規則ニ基キ發スル官ノ指示命令ニ從ハサルトキ

第十五條 貸下期間ノ滿了其ノ他ノ事由ニ由リ借地權消滅シタルトキ借地人ハ自費ヲ以テ指定セラレタル期限内ニ現存スル地上物件ヲ撤去シ土地ヲ原形ニ復スヘシ但シ官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ期限内ニ地上物件ヲ撤去セス又ハ土地ノ復舊ヲ爲ササルトキハ官ニ於テ適宜ノ處分ヲ爲スコトアルヘシ

第十六條 借地人ニ對シ催告又ハ通告ヲ爲スヘキ場合ニ於テ借地人若ハ其ノ管理人ノ居所不明ナルトキハ公報ニ告示ス

第十七條 許可ナクシラ官有土地ヲ侵墾シ又ハ使用シタルトキハ其ノ期間中相當借地料ノ十倍額以内ヲ徵シ地上物件ハ官ニ於テ適宜之カ處分ヲ爲スヘシ

第十八條 貸下地ノ境界ハ官ニ於テ石標ヲ以テ之ヲ表示シ其ノ費用ヲ借地人ヨリ徵收ス

第十九條 軍政長官土地ノ貸下ヲ許可セムトスルトキハ軍司令官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 軍政長官ハ本規則ニ基キ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處

分ヲナスコトヲ得

附 則

本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
大正四年八月二十八日軍令第六十一號官有土地貸下規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

倫敦銀塊相場 (大正七年二月)

一	日	四十三片四分ノ一	十一日	四十二片八分ノ七	二十二日	同
二	日	同	十二日	同	二十三日	四十二片二分ノ一
三	日	曜	十三日	同	二十四日	日 曜
四	日	四十三片四分ノ一	十四日	四十二片四分ノ三	二十五日	四十二片二分ノ一
五	日	同	十五日	同	二十六日	同
六	日	同	十六日	同	二十七日	同
七	日	四十三片	十七日	日 曜	二十八日	同
八	日	同	十八日	四十二片八分ノ五		
九	日	同	十九日	同		
十	日	曜	二十日	同		

◎屠獸場屠殺數 (大正七年一月)

一	日	休業	同上	同上	同上	山羊	計
二	日	同	同上	同上	同上	同上	
三	日	同	同上	同上	同上	同上	
四	日	同	同上	同上	同上	同上	
五	日	休業	同上	同上	同上	同上	
六	日	同	同上	同上	同上	同上	
七	日	三八八	同上	同上	同上	同上	
八	日	二八九	同上	同上	同上	同上	
九	日	二四六	同上	同上	同上	同上	
十	日	三〇四	同上	同上	同上	同上	

書目	號數	發行所
○天津商業會所週報	自七五號	天津商業會議所
○大阪商工名錄	二號	大阪商業會議所
○釧路實業俱樂部會報	八一號	釧路商業俱樂部
○上海經濟時報	自一九號	上海經濟時報社
○月報	六七號	下關商業會議所

寄贈書

類 (大正七年二月中)
(到著ノ分)

十一日	六九	同	一八	九二
十二日	四三	同	三二	四七
十三日	休業	同	上	六
十四日	三二	同	上	四
十五日	九六	同	上	一
十六日	一三七	同	上	一
十七日	二五八	同	上	一
十八日	二二四	同	上	一
十九日	三二九	同	上	一
二十日	休業	同	上	一
二十一日	二四六	同	上	一
二十二日	三〇	同	上	一
二十三日	二六二	同	上	一
二十四日	三〇三	同	上	一
二十五日	三九二	同	上	一
二十六日	九〇	同	上	一
二十七日	休業	同	上	一
二十八日	二九五	同	上	一
二十九日	二三五	同	上	一
三十日	二四一	同	上	一
三十一日	二四一	同	上	一
合計	五、七〇一	同	上	一
大正六年	四、〇七〇	同	上	一
十二月	三	同	上	一
備考	屠殺牛內譯二、六三一マニラ行	同	上	一
	一、五九九浦鹽行	同	上	一
	一、四七一頭當市	同	上	一

○山東公論	自二一號	山東公論社
○大阪商工時報	九號	大阪市役所商工課
○鐵工時報	三號	鐵工時報社
○月報	五八號	門司商工會
○內外商工時報	一六八號	宇都宮商業會議所
○週報	自三〇六號	農商務省商品陳列館
○遼東時報	五號	上海日本人實業協會
○期鮮經濟雜誌	二五號	遼東時報社
○東亞經濟資料第四卷第二號	三〇五號	京城商業會議所
○岡山商工彙報	一八號	東亞經濟調查局
○月報	九四號	大日本紡績聯合會
○貿易通	一三〇號	岡山商業會議所
○氣象月報	十一月號	仁川商業會議所
○月報	二號	名古屋商業會議所
○月報	四八號	大阪商業會議所
○月報	二號	守備軍司令部
○月報	二號	青島卸商組合
○月報	二號	熊本商業會議所
○上海港貿易統計月報	大正六年八月號	上海日本人實業協會

▽訂正 前號附錄青島貿易三ヶ年比較表中左記の通り訂正す
二月欄中大正六年輸出數量二八、八〇七九であるは(二七、七六二、九)に同欄計の數量六、〇〇一、六(五九、九五六、六)に、二月欄中大正四年輸出數量五、九四九、〇であるは(五、九四六、〇)に、八月欄中大正六年輸出數量三、二六二、七は(三四、八三四、四)に、同計數量六、四一〇、七、五(六六、六五五、九)に、九月欄中大正六年輸出數量二、九九三、四(二八、〇〇一、五)に、輸入二五、六七六、一(二九、二二二、〇)に、同計五三、六六九、五(五七、二三三、五)に、十月欄中大正六年輸出數量三、四一〇、三、一(三三、八八六、八)に、同輸出數量三、一六三、一(三一、二二二、〇)に、同計數量六、五七二、六(六五、五〇七、三)に、十二月欄中大正六年輸出數量六、六一五、九(六三、三四〇、七)に、同輸入數量三、一五三、〇(三二、一六三、三)に、同計數量九、七六六、四(九五、五〇四、〇)に、合計欄中大正六年輸出數量四四、二八七、三(四四、一七六、五)に、同輸入數量三、七七八、一(三八六、三八三、二)に、同計數量八四、三八二、七(八二、一四八、八)に

(民政部調查)

品名	食料品	白米	糯米	清酒	ビール	茶	砂糖	醬油	漬物類	味噌														
建物	回印特選赤	同青	同黒	特選一等	同二	白	眞正	東正	キリン	アサヒ	サクラ	正喜撰	川柳(上)	同(下)	白	中	龜甲萬	龜甲寶	澤庵干	梅干	奈良漬	樂京漬	白	赤
單位	一石	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	一斗入	同	百目	同	同	同	同	同
本月ノ價格	三〇・〇〇〇	二八・七〇〇	二八・〇〇〇	三〇・〇〇〇	二九・〇〇〇	四〇・〇〇〇	三八・〇〇〇	三四・〇〇〇	一三・五〇〇	一二・八〇〇	一一・〇〇〇	九六〇	六六〇	六六〇	一八〇	一七〇	五・八〇〇	四・八〇〇	〇九〇	一五〇	三〇〇	一一〇	〇八〇	〇九〇
前月ノ價格	三〇・〇〇〇	二八・〇〇〇	二八・〇〇〇	三三・〇〇〇	三二・〇〇〇	三七・〇〇〇	三五・〇〇〇	三一・〇〇〇	一三・五〇〇	一二・八〇〇	一一・〇〇〇	九六〇	六六〇	六六〇	一八〇	一七〇	五・八〇〇	四・八〇〇	〇九〇	一五〇	三〇〇	一一〇	〇八〇	〇九〇
前月トノ差	×	□	×	△	△	□	□	□	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
品名	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類
建物	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類
單位	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
本月ノ價格	三五〇	二〇〇〇	二〇〇	一三〇	一五〇	七〇〇	三五〇	一・三〇〇	一・二〇〇	一・一〇〇	二五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一三〇	三五〇	三五〇	二八〇	三〇〇	三〇〇	五〇〇	六五〇	二五〇	二二〇
前月ノ價格	三五〇	二〇〇〇	一八〇	一五〇	一三〇	七〇〇	三五〇	一・三〇〇	一・二〇〇	一・一〇〇	二五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一三〇	三五〇	三五〇	二八〇	三〇〇	三〇〇	五〇〇	六〇〇	二三〇	二一〇
前月トノ差	×	×	□	△	□	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
品名	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類
建物	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類
單位	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
本月ノ價格	三五〇	二〇〇〇	二〇〇	一三〇	一五〇	七〇〇	三五〇	一・三〇〇	一・二〇〇	一・一〇〇	二五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一三〇	三五〇	三五〇	二八〇	三〇〇	三〇〇	五〇〇	六五〇	二五〇	二二〇
前月ノ價格	三五〇	二〇〇〇	一八〇	一五〇	一三〇	七〇〇	三五〇	一・三〇〇	一・二〇〇	一・一〇〇	二五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一三〇	三五〇	三五〇	二八〇	三〇〇	三〇〇	五〇〇	六〇〇	二三〇	二一〇
前月トノ差	×	×	□	△	□	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
品名	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類
建物	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類
單位	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
本月ノ價格	三五〇	二〇〇〇	二〇〇	一三〇	一五〇	七〇〇	三五〇	一・三〇〇	一・二〇〇	一・一〇〇	二五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一三〇	三五〇	三五〇	二八〇	三〇〇	三〇〇	五〇〇	六五〇	二五〇	二二〇
前月ノ價格	三五〇	二〇〇〇	一八〇	一五〇	一三〇	七〇〇	三五〇	一・三〇〇	一・二〇〇	一・一〇〇	二五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一三〇	三五〇	三五〇	二八〇	三〇〇	三〇〇	五〇〇	六〇〇	二三〇	二一〇
前月トノ差	×	×	□	△	□	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
品名	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類
建物	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類
單位	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
本月ノ價格	三五〇	二〇〇〇	二〇〇	一三〇	一五〇	七〇〇	三五〇	一・三〇〇	一・二〇〇	一・一〇〇	二五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一三〇	三五〇	三五〇	二八〇	三〇〇	三〇〇	五〇〇	六五〇	二五〇	二二〇
前月ノ價格	三五〇	二〇〇〇	一八〇	一五〇	一三〇	七〇〇	三五〇	一・三〇〇	一・二〇〇	一・一〇〇	二五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一三〇	三五〇	三五〇	二八〇	三〇〇	三〇〇	五〇〇	六〇〇	二三〇	二一〇
前月トノ差	×	×	□	△	□	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
品名	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類
建物	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類
單位	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
本月ノ價格	三五〇	二〇〇〇	二〇〇	一三〇	一五〇	七〇〇	三五〇	一・三〇〇	一・二〇〇	一・一〇〇	二五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一三〇	三五〇	三五〇	二八〇	三〇〇	三〇〇	五〇〇	六五〇	二五〇	二二〇
前月ノ價格	三五〇	二〇〇〇	一八〇	一五〇	一三〇	七〇〇	三五〇	一・三〇〇	一・二〇〇	一・一〇〇	二五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一三〇	三五〇	三五〇	二八〇	三〇〇	三〇〇	五〇〇	六〇〇	二三〇	二一〇
前月トノ差	×	×	□	△	□	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
品名	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類
建物	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類
單位	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
本月ノ價格	三五〇	二〇〇〇	二〇〇	一三〇	一五〇	七〇〇	三五〇	一・三〇〇	一・二〇〇	一・一〇〇	二五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一三〇	三五〇	三五〇	二八〇	三〇〇	三〇〇	五〇〇	六五〇	二五〇	二二〇
前月ノ價格	三五〇	二〇〇〇	一八〇	一五〇	一三〇	七〇〇	三五〇	一・三〇〇	一・二〇〇	一・一〇〇	二五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一三〇	三五〇	三五〇	二八〇	三〇〇	三〇〇	五〇〇	六〇〇	二三〇	二一〇
前月トノ差	×	×	□	△	□	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
品名	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類
建物	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類
單位	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
本月ノ價格	三五〇	二〇〇〇	二〇〇	一三〇	一五〇	七〇〇	三五〇	一・三〇〇	一・二〇〇	一・一〇〇	二五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一三〇	三五〇	三五〇	二八〇	三〇〇	三〇〇	五〇〇	六五〇	二五〇	二二〇
前月ノ價格	三五〇	二〇〇〇	一八〇	一五〇	一三〇	七〇〇	三五〇	一・三〇〇	一・二〇〇	一・一〇〇	二五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一三〇	三五〇	三五〇	二八〇	三〇〇	三〇〇	五〇〇	六〇〇	二三〇	二一〇
前月トノ差	×	×	□	△	□	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
品名	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類
建物	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類
單位	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
本月ノ價格	三五〇	二〇〇〇	二〇〇	一三〇	一五〇	七〇〇	三五〇	一・三〇〇	一・二〇〇	一・一〇〇	二五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一三〇	三五〇	三五〇	二八〇	三〇〇	三〇〇	五〇〇	六五〇	二五〇	二二〇
前月ノ價格	三五〇	二〇〇〇	一八〇	一五〇	一三〇	七〇〇	三五〇	一・三〇〇	一・二〇〇	一・一〇〇	二五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一三〇	三五〇	三五〇	二八〇	三〇〇	三〇〇	五〇〇	六〇〇	二三〇	二一〇
前月トノ差	×	×	□	△	□	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
品名	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類
建物	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類
單位	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
本月ノ價格	三五〇	二〇〇〇	二〇〇	一三〇	一五〇	七〇〇	三五〇	一・三〇〇	一・二〇〇	一・一〇〇	二五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一三〇	三五〇	三五〇	二八〇	三〇〇	三〇〇	五〇〇	六五〇	二五〇	二二〇
前月ノ價格	三五〇	二〇〇〇	一八〇	一五〇	一三〇	七〇〇	三五〇	一・三〇〇	一・二〇〇	一・一〇〇	二五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一三〇	三五〇	三五〇	二八〇	三〇〇	三〇〇	五〇〇	六〇〇	二三〇	二一〇
前月トノ差	×	×	□	△	□	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
品名	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類
建物	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類	干物類
單位	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
本月ノ價格	三五〇	二〇〇〇	二〇〇	一三〇	一五〇	七〇〇	三五〇	一・三〇〇	一・二〇〇	一・一〇〇	二五〇	一五〇												

[illegible]

セメント										胡椒										石灰										石										二										牛										牛										牛										雞										雞										豚										牛										豆										豆										落花生										棉										麥																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉										粉									

(大正七年一月中)

三

瓜	蜜	胡	乾	梨	棗	繭繭 繭繭 繭繭	絹	絹 (繭繭繭繭)	綿	綿	綿	綿	麻	支那紙 支那紙 支那紙
子	柑	桃	柿				類	絲	品	絲	布			除
著	發	著	發	著	發	著	發	著	發	著	發	著	發	著
〇六	〇二	二〇〇	〇二	〇二			七四	〇九	二二	二八	〇二	三四	三六	〇三
二二六		六〇三	二五	一八三			八三	二六	二六			〇三	二〇	一七三
〇七		〇四		一九四			一七					二二		二三
								五七				三六	三八	
〇六	〇二	二〇〇	〇二	〇二			七四	〇九	二二	二八	〇二	三四	三六	〇三
二四三		六〇六	二五	三七七			八三	一七三	二六			〇三	六九六	三八七
支那酒	ビ ル	日本酒	砂糖	藁及粟稈	安平	麥稈真田	肥料各種	油粕	油中記載 モノヲ除ク	表類	牛油	豆油	落花生油	石油
著	發	著	發	著	發	著	發	著	發	著	發	著	發	著
四五	一四	二五	八二			一三	〇三		二二	〇三	一三	〇四	一四	一〇
四六	一七	一三	九八七	四〇一〇	二四四	二九八	一五〇		八三	二三八	五四七	二六〇	四七八	七〇九
													二	四六〇
〇五	〇三	〇三	二五	一四五	一八			七三〇	一七四	一八九七	五三六二	一三	五七八四三	一四二四
			八〇七	三九										一〇五三
四五	一四	二五	八二			一三	〇三		二二	〇三	一三	〇四	二五	一〇
五二	一九	一六	一八〇五九	四一九四	二六三	二九八	一五〇	七三〇	元九八	四二二	五六一五	一三	六八八〇	二二三七

食料品		表中記載ノモノヲ除ク	野 菜	鷄 卵	染 塗 料	藥品及藥材	曹 達	石 鹼	煙 草	葉 煙 草	茶	豚 毛	羊 毛	獸 骨	牛 皮	豚 皮			
著	發	著	發	著	發	著	發	著	發	著	發	著	發	著	發	著	發		
一八三	三二	一八	四三	三六	〇二	二二	〇二	〇二	三〇九	〇五	〇二	〇一	〇九	〇二	一五〇	一六	〇五		
三二	一八	八三	二一三七	一二	三六	一〇二七	二二八	二二〇	四〇八	二五〇	〇六	七〇	四七	三五九	二七	一八	七五三		
																	〇八		
					一四五			三四二		二七		〇二			一九六〇	三八二			
						一五八三			二〇三					四三七	九二九	四〇八			
一八三	五三	四三	三六	三六	〇二	二二	〇二	〇二	三〇九	〇五	〇一	〇二	〇九	〇二	二〇四	二〇四	〇五		
三六	一八	八三	二六八三	二	一八二	二六〇九	二二八	三四三	四〇八	三四七九	〇六	四七	七二	四五五	五〇九	一五〇	一五四二		
魚 類	昆布其他海	草	簾	雜貨	表中記載ノモノヲ除ク	燐寸材料	火藥類	銅貨	青銅錢	銅	家 具	麻袋及布袋	驢及驢馬	馬	生 牛	豚	其 他	合 計	
著	發	著	發	著	發	著	發	著	發	著	發	著	發	著	發	著	發	著	發
〇二	七三			八七	〇六	二二	六五	二二			二八	二〇九				五	一五四	二〇三四	二〇四八
一四五	一四九		五六九	一〇五〇	八八三	二一四	七三	七〇	九三	七〇	〇五	二九〇	三八	二	五六四		八八〇	六二九六	九四九八
				二七	二七							二					五〇	九〇	九〇
	三七			二七	七七			四七				六二	二九				九七六	二二五七	二二五八
																	六〇〇	六〇〇	六〇〇
三〇〇	一九七二			九三九	八七三	七九二	一六二五		二九四二		一八七						二四七	六五七八	二〇九九二
〇二				〇六	二二			二二	六五	二二	二八	二〇九				五	六〇〇	二六三四	二三八
二〇四五	三六五七		五六九	一〇〇六	二九八三	一六二五		七〇	九三三	七〇	〇五	五六八	四五六				二〇三	一四九六	三一九七五

備考 單位噸以下一位・獸類ハ頭數ニシテ合計噸數ニ算入セス

備考 單位噸以下一位・獸類ハ頭數ニシテ合計噸數ニ算入セス

統 計

○青島輸出入貿易品 Exports and Imports from and into the port of Tsingtao.

輸 入 ノ 部 (一月) Imports. (Jun. 1918)

品 目	Articles.	單位 Unit.	日本內地 Japan	朝 鮮 Chosen	臺 灣 Formosa	支 那 China	香 港 Hong- kong	外 國 Other Co untries	計
米	Rice.	Ton	—	413.3	—	1,261.2	65.4	—	1,739.9
豆 類	Beans, pear pluse.	"	1.9	—	—	14.9	—	—	16.8
高 梁	Kaoling.	"	—	—	—	4,745.0	—	—	4,745.0
玉 黍 蜀	Maize.	"	—	—	—	207.9	—	—	207.9
其他穀類及種子	Other Grains.	"	8.3	8.1	—	3.1	—	—	19.5
麥 粉	Flour Wheat.	"	—	—	—	4,217.1	—	—	4,217.1
蔬 菜	Vegetables.	"	50.9	0.9	—	62.1	1.0	—	114.9
果 實	Fruit.	"	244.4	3.8	—	350.0	—	—	598.2
茶	Tea.	"	67.2	—	—	38.9	—	—	106.1
白 砂 糖	Suger, white.	"	558.8	—	198.0	82.6	445.0	—	1,284.4
赤 砂 糖	" Brown.	"	—	—	—	11.8	1,155.3	—	1,167.1
冰 砂 糖	" Rocks.	"	0.3	—	—	20.5	46.4	—	67.2
昆 布 及 海 草	Laminoria	"	385.3	—	—	0.7	11.1	—	397.1
鮮 魚 介	Fish.	"	97.9	24.4	—	33.3	—	—	155.6
其ノ他ノ海產物	Sea Products.	"	62.2	81.5	—	17.7	3.1	—	164.5
日 本 酒	Sake.	"	113.5	1.1	—	4.0	—	—	118.6
洋 酒	Liquor.	"	2.2	0.4	—	12.6	—	—	15.2
支 那 酒	Wine, native.	"	—	—	—	45.9	—	—	45.9
麥 酒	Beer.	"	0.1	—	—	—	—	—	0.1
清 涼 飲 料	Mineral water.	"	3.0	—	—	4.6	—	—	7.6
味 噌	Per cheese.	"	5.3	3.4	—	17.5	—	—	26.2
醬 油	Soy.	"	17.3	7.6	—	8.3	—	—	33.2
其ノ他ノ食料品	Other provision.	"	80.7	1.5	—	163.6	7.0	—	252.8
煙 草	Tobacco.	"	—	—	—	1,344.8	—	—	1,344.8
皮 革 類	Leathers manufac- tures	"	0.7	—	—	1.3	—	—	2.0
石 油	Kerosene oil.	"	459.9	—	—	—	—	2,389.0	2,848.9
桐 油	Oil, wood.	"	—	—	—	126.6	—	—	126.6
其ノ他ノ油類	Other oil.	"	8.2	—	—	45.8	—	—	54.0
蠟 燭	Candle.	"	0.6	—	—	53.5	—	—	59.1
石 鹼	Soap.	"	40.4	—	—	5.2	—	—	45.6
藥 品	Medicines.	"	34.8	—	—	509.3	73.6	—	617.7
燐 寸	Matches.	"	1,565.0	—	—	0.1	—	—	1,565.1

品 目	Articles.	單位 Unit.	日本內地 Japan.	朝 鮮 Chosen.	臺 灣 Formosa	支 那 China.	香 港 Hong- kong.	外 國 Other Co untries.	計 Total.
染料及塗料	Dyes and colours.	Ton	13.2	—	—	29.1	9.8	—	52.1
セメント	Cement.	"	303.6	—	—	50.0	—	—	353.6
綿 絲	Cotton yarn.	"	901.0	—	—	2 155.7	—	—	3 056.7
絹 絲	Silk yarn.	"	—	—	—	168.3	—	—	168.3
麻	Hemp.	"	—	—	—	55.3	—	—	55.3
棉 花	Cotton. Raw.	"	—	—	—	26.0	—	—	26.0
綿 布	Cotton tissues.	"	577.0	—	—	486.3	—	—	1,063.3
絹 布	Silk tissues.	"	4.7	—	—	38.8	—	—	43.5
麻 袋	Gunny bag.	"	44.7	—	—	90.6	127.6	—	262.9
洋物雜貨	Other European goods	"	187.8	0.2	—	96.3	7.9	—	292.2
日 本 紙	Paper, Japanese.	"	21.2	—	—	3.5	—	—	24.7
洋 紙	" European.	"	43.6	—	—	1.2	—	—	44.8
支 那 紙	" chinese.	"	—	—	—	1,861.9	11.7	—	1,873.6
石 炭	Coal.	"	1,357.0	—	—	200.0	—	—	1,557.0
煉瓦及瓦	Bricks.	"	45.7	—	—	—	—	—	45.7
陶 磁 器	Porcelains and earthenwares.	"	18.3	—	—	8.5	—	—	26.8
硝子及同製品	Glass and Manufac- tures of	"	65.8	—	13.6	3.5	5.4	—	83.3
鐵(古鐵ヲ含ム)	Iron.	"	273.6	—	—	130.1	117.4	—	521.1
其ノ他ノ金屬	Other metals.	"	54.5	—	—	63.3	0.8	—	123.6
金 屬 製 品	Metals.	"	224.5	—	—	245.1	—	—	469.6
機 械	machinery.	"	78.7	—	—	30.3	—	—	109.0
電 氣 用 品	Electrical.	"	6.6	—	—	—	—	—	6.6
車 輛	Vehicle.	"	—	—	—	6.0	—	—	6.0
竹 材	Bomboo, ware.	"	8.1	—	—	1,697.5	—	—	1,705.6
木 材	Lumber.	"	566.2	—	—	1,170.0	3.0	—	1 739.2
燐 寸 材 料	" matches.	"	500.1	—	—	—	—	—	500.1
木 炭	Charcoal.	"	49.2	—	—	205.1	—	—	254.3
蓆 類	Matting.	"	21.3	—	—	2.6	—	—	23.9
家 具	Furniture.	"	27.4	1.1	—	38.3	—	—	66.8
其ノ他	Other goods.	"	573.0	43.5	—	215.7	14.2	—	846.4
合 計	Total.	"	9,775.7	590.8	211.6	22,498.9	2 105.7	2,389.0	37,571.7

輸 出 ノ 部 (一月) Exports. (Jun.1918)

品 目	Aarticles.	單位 Unit.	日本內地 Japan	朝 鮮 Chosen	臺 灣 Formosa	支 那 China	香 港 Hotg- kong	外 國 Oihet Co untries.	計 Total.
落 花 生	Ground nuts.	"	4,626.1	—	—	4,154.4	43.2	—	8,823.7
其ノ他ノ穀類	Other grains.	"	9.2	—	—	2.0	—	—	11.2
蔬 菜	Vegetables.	"	—	18.9	—	283.3	—	—	302.2
果 實	Fruit.	"	—	236.3	—	130.9	66.5	—	433.7
核 子	Walnuts.	"	—	10.9	—	42.2	—	—	53.1
海 產 物	Sea products.	"	0.9	—	—	9.9	—	—	10.8
牛 肉	Meat.	"	476.2	—	—	38.0	—	1,703.2	2,220.4
其ノ他ノ獸肉	Other fresh.	"	0.2	—	—	—	—	2.9	3.1
豆 素 麵	Macaroni, Beans.	"	—	—	—	23.3	—	—	23.3
鷄 卵	Eggs.	"	21.9	0.2	—	0.5	—	—	22.6
卵 製 品	Eggs, products.	"	—	—	—	36.0	—	—	36.0
麥 酒	Beer.	"	200.2	—	—	126.5	—	—	326.7
其ノ他ノ酒類	Othes Wine.	"	—	—	—	0.9	—	—	0.9
鹽	Salt.	"	8,978.0	2,620.0	—	—	—	—	11,598.0
其ノ他ノ食料品	Other, Provisions.	"	0.4	—	—	3.8	—	—	4.2
煙 草	Cigarettes.	"	—	—	—	1.2	—	—	1.2
葉 煙 草	Tobacco.	"	—	—	—	3,486.5	—	—	3,486.5
獸 骨	Bones, animals.	"	313.0	—	—	—	—	—	313.0
骨 粉	Bones, products.	"	192.6	—	—	—	—	—	192.6
牛 皮	Cowhide.	"	274.5	—	—	42.9	—	—	317.4
其ノ他ノ獸皮	Skins, animal.	"	1.0	—	—	12.0	—	—	13.0
羊 毛	Wool.	"	—	—	—	115.8	—	—	115.8
豚 毛	Bristle.	"	—	—	—	27.1	—	24.7	51.8
落 花 生 油	Oil, Groundnuts.	"	6,202.2	—	—	2,266.7	78.5	—	8,547.4
豆 油	Oil, Beans.	"	839.1	—	—	269.7	—	—	1,108.8
牛 油	Tallow.	"	904.1	—	—	166.2	—	0.7	1,071.0
蓖 麻 子 油	Castor oil.	"	—	—	—	76.9	—	—	76.9
其ノ他ノ油類	Other oil.	"	0.8	—	—	13.3	—	—	14.1

品目	Articles.	單位 Unit.	日本內地 Japan.	朝鮮 Chosen.	臺灣 Formosa	支那 China.	香港 Hong-kong.	外國 Other Countries.	計 Total.
藥品	Medicines.	Ton.	—	7.8	—	25.8	—	—	33.6
染料及塗料	Dyes and Colours.	"	1.6	—	—	42.1	—	—	43.7
綿絲	Cotton yarn.	"	—	—	—	62.5	—	—	62.5
絹絲	Silk yarn.	"	—	—	—	27.6	—	—	27.6
絹屑絲	Silk waste.	"	—	—	—	101.6	—	—	101.6
棉花	Cotton Raw.	"	8.8	—	—	200.0	—	—	208.8
繭(屑ヲ含ム)	Cocoon.	"	18.7	—	—	—	—	—	18.7
綿布	Cotton tissues.	"	1.7	—	—	19.1	—	—	20.8
絹布	Silk tissues.	"	—	—	—	31.5	5.0	—	36.5
麻袋	Gunny bag.	"	—	—	—	12.0	—	—	12.0
紙類	Paper.	"	—	—	—	1.8	—	—	1.8
溜川炭	} Caol.	"	—	—	—	2,215.0	313.0	—	2,528.0
博山炭		"	—	—	—	2,505.1	646.0	—	3,151.1
コークス	Coke.	"	5,292.9	—	—	10.0	250.0	—	5,552.9
陶磁器	Porcelains and earthen wares.	"	0.5	1.8	—	0.4	—	—	2.7
硝子及同製品	Glass and manufactures of.	"	0.2	—	—	28.0	—	—	28.2
鐵(古鐵ヲ含ム)	Iron.	"	13.2	—	—	0.7	—	—	13.9
真鍮塊	Brass.	"	310.4	—	—	78.1	—	—	398.5
其ノ他ノ金屬	Other metales.	"	71.8	—	—	10.9	—	—	82.7
金屬製品	Metales.	"	1.5	—	—	6.0	—	—	7.5
機械	Maehinery.	"	39.6	—	—	12.9	—	—	52.5
車輛	Vihicls.	"	—	—	—	2.0	—	—	2.0
桐材	} Lumper.	"	307.5	—	—	—	—	—	307.5
其ノ他ノ木材		"	0.8	—	—	28.3	—	—	29.1
麥稈眞田	Straw braid.	"	96.9	—	—	3.3	—	—	100.2
家具	furniture.	"	2.6	16.7	—	1.9	—	—	21.2
豆粕	Bean cake.	"	26.3	—	—	26.3	—	—	52.6
貴重品	Valualbes.	"	—	—	—	7.7	—	—	7.7
其ノ他	Other goods.	"	69.8	—	—	53.8	—	—	123.6
合計	Total.	"	29,310.2	2,912.6	—	16,844.4	1,402.2	1,734.5	52,203.9

入 港 船 (一月中) Vessels entered ((Jun)

仕 出 地	Whers From.	日本船 Japan.		英國船 British.		米國船 American.		露國船 Russian.		支那船 Chinese.		葡國船 Dutch.		計 Total.	
		隻數 No.	噸數 Tons.	隻數 No.	噸數 Tons.	隻數 No.	噸數 Tons.	隻數 N.	噸數 Tons.	隻數 N.	噸數 Tons.	隻數 No.	噸數 Tons.	隻數 No.	噸數 Tons.
日 本 內 地	Japan.	15	12,603	—	—	—	—	1	891	—	—	—	—	16	13,497
大 連	Dairen.	21	17,509	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	21	17,509
上 海	Shangbni.	19	16,265	2	2,114	—	—	—	—	1	767	1	1,114	23	20,260
芝 罘	Chefoo.	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
天 津	Tientsin.	1	929	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	929
其他ノ支那沿岸	Other chinese port.	2	111	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	111
臺 灣	Formosa.	1	962	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	962
釜 山	Fusan.	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
仁 川	Jinsen.	3	1,278	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	1,278
香 港	Hongkong.	—	—	3	5,545	—	—	—	—	1	767	—	—	4	6,312
マニラ	Manila.	—	—	—	—	3	5,332	—	—	—	—	—	—	3	5,332
浦 鹽	Vladiwostock.	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
其 他ノ外 國	Other Countries.	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	Total.	62	49,660	5	7,659	3	5,332	1	891	2	1,534	1	1,114	74	66,190

出 港 船 (一月中) Vessels Cleared ((Jun)

仕 向 地	Destination.	日本船 Japan.		英國船 British.		米國船 American.		露國船 Russian.		支那船 Chinese.		葡國船 Dutch.		計 Total.	
		隻數 N.	噸數 Tons.	隻數 N.	噸數 Tons.	隻數 N.	噸數 Tons.	隻數 N.	噸數 Tons.	隻數 N.	噸數 Tons.	隻數 N.	噸數 Tons.	隻數 N.	噸數 Tons.
日 本 內 地	Japan.	25	21,233	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	25	21,233
大 連	Dairen.	18	14,340	1	895	—	—	—	—	2	1,534	—	—	21	16,769
上 海	Shanghai.	16	14,538	2	2,114	—	—	—	—	—	—	—	—	18	16,652
芝 罘	Chefoo.	—	—	1	1,222	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1,222
天 津	Tientsin.	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
其他ノ支那沿岸	Other chinese port.	1	36	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	36
臺 灣	Formosa.	1	1,610	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1,610
釜 山	Fusan.	1	420	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	420
仁 川	Jinsen.	3	1,278	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	1,278
香 港	Hongkong.	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マニラ	Manila.	—	—	—	—	3	5,332	—	—	—	—	—	—	3	5,332
浦 鹽	Vladiwostock.	1	658	—	—	—	—	1	891	—	—	—	—	2	1,549
其 他ノ外 國	Other Countries.	—	—	1	3,428	—	—	—	—	—	—	1	1,114	2	4,542
計	Total.	66	54,113	5	7,659	3	5,332	1	891	2	1,534	1	1,114	78	70,643

入 港 船 旅 客 (一 月) Passengers fy steamship. Laupes. (Jun)

乘 船 地	Where Fom.	日 本 人 Japanese		支 那 人 Chinese.		英 國 人 English.		米 國 人 American.		佛 國 人 French.		露 國 人 Russian.		伊 太 利 人 Italian.		印 度 人 Indian.		計 Total.	
		Male	Female	Male	Female	Male	Female	Male	Female	Male	Female	Male	Female	Male	Female	Male	Female	Male	Female
大 阪	Osaka.	97	81	21	—	4	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	122	84
門 司	Moj.	287	118	10	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	293	118
大 連	Dairen.	193	47	7,822	619	3	3	—	—	1	—	6	3	1	—	—	—	8,026	672
上 海	Shanghai.	34	11	370	12	15	—	1	—	1	—	3	—	—	—	—	—	424	23
朝 鮮	Chosen.	15	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	15	6
芝 罘	Chefoo.	2	1	87	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	90	6
香 港	Hongkong.	—	—	9	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9	1
マニラ	Manila.	—	—	1	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	2	1
計	Ttal.	628	264	8,320	637	23	6	2	1	2	—	9	3	1	—	1	—	8,986	911

出 港 船 旅 客 (一 月) Passengers fy steamship. Embarkes. (Jun)

乘 船 地	Destina- tion.	日 本 人 Japanese		支 那 人 Chinese.		英 國 人 English.		米 國 人 Amer can.		佛 國 人 French.		露 國 人 Kussian.		伊 太 利 人 Italian.		瑞 典 人 Sweden.		計 Total.	
		Male	Female	Male	Female	Male	Female	Male	Female	Male	Female	Male	Female	Male	Female	Male	Female	Male	Female
大 阪	Osaka.	94	48	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	101	48
門 司	Moji.	326	121	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	327	122
上 海	Shanghai.	35	11	120	22	3	1	1	1	3	—	1	—	—	—	—	—	163	35
朝 鮮	Chosen.	19	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	19	6
芝 罘	Chefoo.	—	—	217	25	4	8	1	1	1	—	—	—	—	—	2	2	225	36
晚 玖 坡	Vancouver.	—	—	1,900	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,900	—
福 州	Foochow.	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
臺 灣	Formosa.	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—
大 連	Dairen.	183	56	2,329	298	3	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	2,515	355
計	Total.	660	242	4,573	345	10	12	2	2	4	—	2	2	—	—	2	2	5,253	605